

皇學館大学
ボランティアルーム

平成30年度 活動報告書



目 次

担当教員挨拶	1
代表あいさつ	2
1. コーディネート状況報告	
・平成 30 年度ボランティアコーディネート 活動報告	5
2. ボランティアルーム企画・活動報告	
・平成 30 年 7 月豪雨救援募金 活動報告	13
・ちょこっと福祉体験 活動報告	15
・サマースクール 活動報告	19
・愛知淑徳大学 CCC とコラボ in 星が丘キャンパス 活動報告	23
・倉陵祭模擬店 活動報告	26
・老人ホームで Let'e 文化祭 活動報告	30
・伊勢市ボランティアセンターフェスティバル 活動報告	33
・平成 30 年度ボランティアルーム年間報告会	36
・愛知淑徳大学 CCC とコラボ in 伊勢 活動報告	42
・季刊誌 活動報告	47
3. アンケート報告	
・平成 30 年度メール登録者対象アンケート報告	53
4. 資料	
・平成 30 年度年間スケジュール	67
・平成 30 年度ボランティア募集一覧	68
・平成 30 年度ボランティアルーム学生スタッフ一覧	72

つないでいく「もの」

皇學館大学ボランティアルーム担当教員
教育学部 叶 俊文

今年度、皇學館大学ボランティアルームの草創期の卒業生と会うことが多かった。2月には現在のボランティアルームのスタッフも交えての交流会となった。なぜ、こうしたことが行われたのか。それは卒業生のボランティアルームへの思いもあるように考えている。

草創期の卒業生は、社会人としても落ち着き、新しい家庭を営むことにも落ち着いてきた時期でもある。ようやく落ち着いてきた時期に、皇學館大学のことが思い出され、「ボランティアルームはどうなっているのだろうか」と気にする余裕が生まれたのかもしれない。そうした時期とボランティアルームが抱えている事柄がシンクロして交流会に繋がったのかもしれない。もちろん、夏に開催されたボランティアルームの同窓会で卒業生が一番気にしていたのは、「ボランティアルームはどうなっているのか」の一点であった。つまり、つないでいく「者」たちのことが気になりながらも、心配していたのであろう。あの時と同じような思いをして悩んでいないか、同じようなことを気にしていないか・・・と。

同じようなことが私にもあったのかもしれない。今年の学生スタッフに言ったことは過去の報告書を読むことであった。過去の報告書は、その当時のボランティアの状況や学生がボランティアをどのように考えていたのかを教えてくれる。過去を見つめて、今を考えていくということになる。そして、報告書にはその当時の学生スタッフの思いも込められている。つまり、つないでいく「物」は何かを教えてくれることになるだろう。

山口君を中心につないでいく「者」たちが、つないでいく「物」は何かを考えてくれた一年になったように考えている。4年生も入学したころはたくさん人数があったように思っているが、学年が上がるにしたがって少なくなった。けれども、ボランティアに対する思いやボランティアルームに対する思いをつないでくれたと思っている。彼ら自身もボランティア依頼件数の減少、ボランティアコーディネート率の減少を感じていたと思われる。それを取り残したままにするのではなくて、何とか次の代に託したいと思っていたであろう。つないでいく「もの」に対して、どのように対応して行くのかをつないでいく「者」に託していったことになる。

幸いなことに、残された学生スタッフは多い。数は力である。つないでいく「者」たちが、これからのボランティアルームをどのように展開していくのかが問われるだろう。昨年の振り返りで、まだ第2ステージは始まっていないことを記している。ボランティアルームの次へのステップを踏んでいくのか。あるいは、第2ステージの扉をこじ開けていくのか。つないでいく「者」たちにかかっている。

恐れることはない。なぜなら山口君らを含め、たくさんの卒業生が君たちをサポートできるように準備している、見つめてくれている。大丈夫だ。

Take Over

皇學館大学ボランティアルーム学生スタッフ

文学部国文学科 4年

山口遼

皇學館大学社会福祉学部（名張学舎）で発足したボランティアルームを伊勢学舎へ根付かせてくれた先輩方の卒業から季節は早く巡りもう三年の月日が経った。偉大な先輩方が卒業してゆく度に、今あるボランティアルームを“常に変えていかなければならない”という意識と共に今年度のボランティアルームは新たな挑戦を続けた。

最上級生が少ない中、今年度は学年の壁を越えて新スタッフを多く迎える形で活動が始まった。先輩方から引き継いだボランティアルームを衰退させない、常に何か変化を続けなければならぬという強い想いを持ち活動が始まった。今年度はボランティアルームの基本である“コーディネート”を意識するようスローガンにも掲げた。しかし、学生スタッフの呼び込みだけではコーディネート率は上がらない。スタッフ自身がボランティアに参加しないという一面が目立ったように感じられた。だが、悪い面だけではない。それぞれの活動に注目すると、スタッフ自身が参加する意思を見せ一般学生を誘う一面が数多く見られた。スタッフの本質は事務処理ではなく、“ボランティア活動を促進し続ける”という事をきちんと理解していたと考える。昨年度の初動の遅れも改善され、またボランティアルームは少しずつながらも成長し続けている。

今年度は特に新三年生の学生スタッフが、ボランティアルームをより身近に感じられるよう幅広く活動を行い成長した。月別ボランティアでは食堂前の宣伝や、身近な友人から広めていく体勢は昨年度に引き続き、より良い姿勢に進歩している。この姿勢は新一年生にも伝わり、率先して友人を誘い一緒に参加することにより、ボランティアを通して仲間を増やすという役割を担っている。ボランティアルームの原点も自然と引き継ぎつつ、より良いものにしていくように感じられた。この先、ボランティアルームが途切れないように改善を繰り返しながら成長し続けていくことを願っている。

この一年は、特にボランティアルームに変化を求められるスタートとなった。新スタッフが多く入ったこともあり今までにないアイデアや、自分達のカラーがよく出ていたように感じた。新しいボランティアルーム活動の中でそれぞれが考え、努力することで少しずつ成長していった。今後、より良いボランティアルームを作るためには今年度の活動を振り返り、来年度にも繋がるように一人一人の力を集めてボランティアルームの力を大きくしていくことが大切になるだろう。

最後になりましたが、ボランティアの依頼や受け入れをしてくださったボランティア関係者の皆様に教職員とともに心より感謝申し上げます。どうか、今後とも変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いします。

1. コーディネート状況報告

平成30年度ボランティアルームコーディネート 活動報告

1 目的

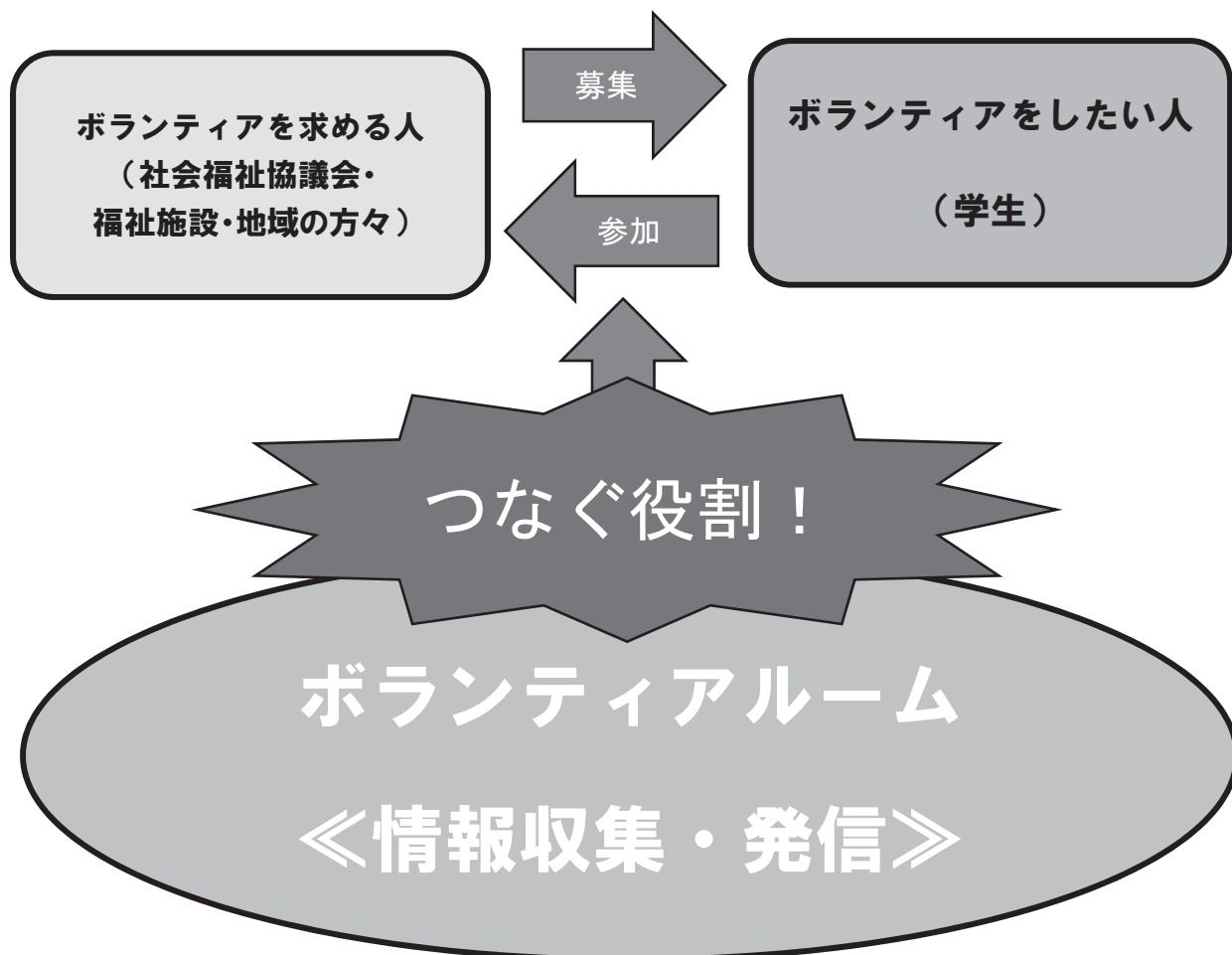
皇學館大学ボランティアルームでは、学生のボランティア活動の支援を学生スタッフが担っており、ボランティアコーディネートを第一に意識し活動を行っている。そこで、今年度のボランティアコーディネートについて活動を報告する。

2 活動内容

ボランティアコーディネーターとしての学生スタッフの活動は、地域や福祉協議会、NPO法人などから依頼されるボランティアを受け付け、学生にボランティア情報を提供し、普段つながることの難しい地域と学生を繋ぐことである。

学生へのボランティア情報提供の方法として、主に2号館1階ボランティアルーム横と6号館1階の掲示板への掲示、メール登録者へのメール配信である。その他にもTwitter、InstagramなどSNSを活用し、以前から行っている月別ボランティアを用いて情報発信をするとともに参加促進をねらっている。

ボランティアルームの仕組み



ボランティアコーディネートをスタッフ自らが行うことにより、一般学生へボランティアの参加しやすさを、より促すことができると考える。我々学生スタッフがボランティアをコーディネートするにあたって、気をつけなければならない事がある。地域と学生の関係を対等かつお互いが成長できる関係を作り上げることである。しかし、今年度はボランティアルームの初心に帰り、特にコーディネートに力を入れるよう学生スタッフ一同が意識しながら活動を行った。

3 コーディネート状況

今年度、地域から依頼されたボランティア情報件数は 128 件（随時募集ボランティア含む）であり、コーディネート件数は 26 件であった。コーディネート人数は、のべ 123 人になる。コーディネート件数は昨年より 13 件増、コーディネート人数は昨年より 115 人減と大きく減少してしまった。年々ボランティアに興味を持たない学生が増えてきている。今年度のコーディネート人数も学生スタッフが自ら参加し、同じ参加者が何度もボランティアに参加しているという点も考慮すると、新規ボランティア参加者が増加しないことが今回のコーディネート人数の減少につながっているのではないだろうか。内訳は以下の通りである

ボランティア総件数	コーディネート件数	コーディネート人数
130 件	27 件	125 人

ボランティアルームでは下記のように依頼されたボランティアを 3 つのジャンルに分けて情報を発信している。

- ①福祉系：高齢者施設、障がい者（児）、福祉協議スタッフなど
- ②地域援助：地域イベント、災害地域救助活動、コンサートスタッフなど
- ③子どもサポート：託児援助、特別支援学級活動、子ども対象イベントスタッフなど

3 ジャンルのボランティア件数は次の通りである。また、一つの情報に複数のジャンルが重なることもある。

	ボランティア件数	コーディネート件数	参加人数
福祉	36 件	10 件	39 人（昨年より 40 人減）
地域	25 件	10 件	21 人（昨年より 23 人減）
子ども	28 件	7 件	65 人（昨年より 25 人減）

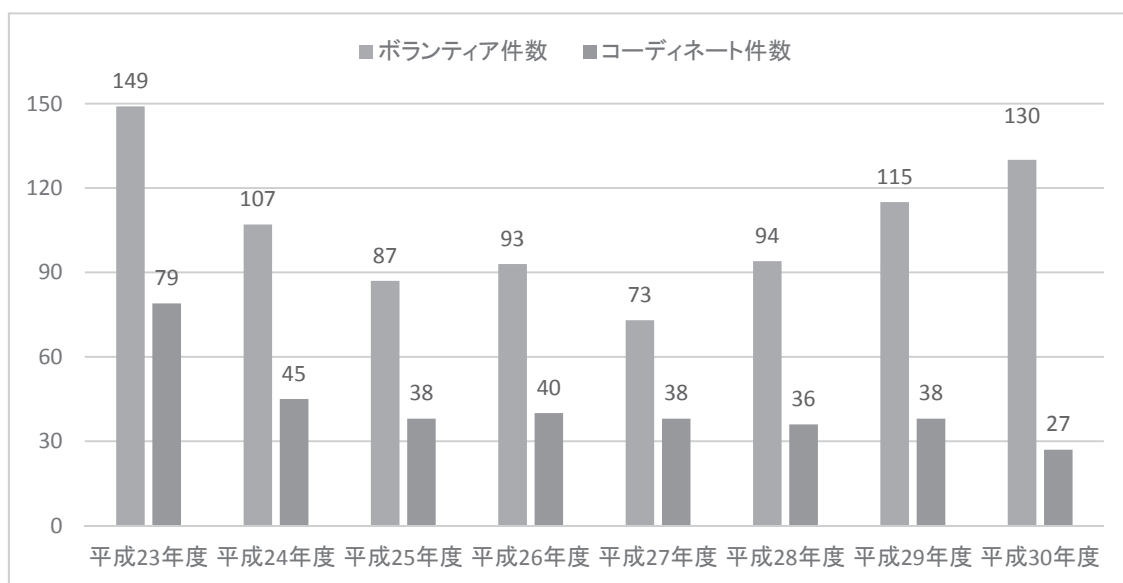
今年度は、ボランティアの依頼件数が 130 件（昨年より 15 件増）と少しながらも増加した。福祉系ボランティアは 36 件（昨年より 3 件減）、子ども系ボランティアは 28 件（昨年

より 8 件増)、地域系ボランティアは 25 件 (昨年より 25 件減) となっている。今年度も地域の方々や社会福祉協議会とのつながりを強めるため、季刊誌や新しいパンフレット・報告書が完成すると担当スタッフが訪問している。この訪問により、学生スタッフと社会福祉協議会との関係を築きつつ、お互いに情報提供も行っている。

子ども系のボランティア参加人数は昨年よりも増加している。これは、教育学科の登録学生が多いという事もあるが、学生スタッフが周りの学生に積極的に呼びかけていた事が結果につながったのではないだろうか。

しかし、3 分野全てのボランティア参加人数は減少の傾向にある。特に福祉系ボランティアは前年度と比べ 42 人も減少している。これは今年度における大きな問題点である。考えられるのは福祉という介護や障がいといったイメージの強さが問題なのではないだろうか。このイメージが学生の中にある限り参加人数を増やすのは困難である。我々学生スタッフが率先して参加し体験して、まず身近な友人などに楽しさを伝えながら一緒に参加してもらうことがボランティアの参加者人数の増加にもつながるだろう。

前年度までのボランティア依頼件数とコーディネート率を比較すると次のとおりである。



ボランティア依頼件数は、平成 23 年から平成 25 年まで少しずつ減少し、平成 27 年から平成 30 年は年々増加している。これは社会福祉協議会に訪問し、つながりを深めた結果だと考えられる。しかし、ボランティア件数が増加しているがコーディネート件数は減少傾向である。コーディネート率観点から見るとあまりにも低下しすぎている。

昨年度も課題として挙げられていたが、今年度からも意識しなければならない大きな問題点である。

平成 29 年から月別ボランティアも継続して行っているが、現状はそう甘くない。月別ボ

ランティアは今後も継続しつつ、学生によりボランティア情報が伝わるように一新しなくてはならない。ボランティア参加促進のためには今一度見直す必要がある。

4 学部学科別参加人数

学部別のボランティア参加人数は以下の通りである。

学部学科	参加人数
文学部：神道学科	3
国文学科	7
国史学科	15
コミュニケーション学科	16
教育学部教育学科	67
現代日本社会学部 現代日本社会学科	81

ボランティア参加人数を学部別でみると、今年度は、教育学科の学生が 67 人（昨年より 17 人増）と少しながら増加した。一方、現代日本社会学科の学生が 81 人（昨年より 8 人減）となっているが昨年度と比較すると 8 人減少している。全体的に参加人数が減少しているのが現実である。未だに教育学科と現代日本社会学科は参加人数が多い。やはり、全体のボランティア募集の中で子ども系と地域系の依頼が多いという傾向も関係している。昨年に引き続き減少にも偏りがあり、ボランティアへの関心の薄れが見えてきている。今後さらに参加者の増加を目指すためには、スタッフが学生に対してどのようなボランティアが求められているのかを考え、提案しながら今のニーズを調査・アプローチしていく必要があると考える。

5 ボランティア登録学生についての詳細

ボランティア登録学生からみるコーディネートを分析する。今年度のメール登録学生は 238 人である。登録学生の詳細は次の表に示している。

今年度のメール登録者数は 238 人（昨年より 70 名減）と大幅に減少した。この原因として 4 月に行われたガイダンスのアピール不足、メール登録用紙の仕組みにも問題があるのではないだろうか。例年新生ガイダンスでは、プロジェクターを使用しボランティアルームの魅力を動画で伝え、毎年新しいものを作り続けている。ガイダンス終了後はボランティアルームの情報を受け取るために、名前・学年学科・メールアドレス・性別・受け取る情報の種類を登録用紙に記入してもらおう。例年は多くのメール登録用紙を得られたが、今年度はガイダンスで登録用紙を多く得ることができなかった。

登録学生詳細						
学部学科別		学年				学科別合計
		1年	2年	3年	4年	
文学部	神道	7	0	2	0	9
	国文	7	4	9	1	21
	国史	9	2	9	2	22
	コミュニケーション	9	5	4	2	20
教育学部		54	26	33	15	128
現代日本社会学部		9	17	11	1	38
学年別合計		95	54	68	21	238

ガイダンスでは一人でも多くの学生にボランティアの良さを知ってもらい、少しでも参加したいという気持ちを学生自身に感じてもらうよう伝えなければならない。また、学生スタッフ自身が経験したことを学生へ伝えながら参加者の輪を広げる必要がある。そのために各学年に合わせてDVD映像の内容も全て異なる。今までのアンケート用紙に記入してもらい、回収した情報をスタッフが全て手入力するにはコストが大きすぎるのではないだろうか。

実際アンケート数が少ないという事は、多くの学生が記入に抵抗がある、若しくは純粋に面倒、手間がかかるという意見が多いのかもしれない。これまでのやり方を一新する必要性も感じられる。さらに、アンケートだけでなくボランティア参加者を増やす、促進する、最後の結果としてコーディネート率の上昇が自然と見えてくるのではないだろうか。

コーディネート率が悪化している原因として一つ挙げられるのは、学生スタッフが自ら率先して参加していないという点も考えられる。コーディネート率を上昇させるには参加者0人のボランティアを絶対に無くし、参加学生がいないのであれば学生スタッフが参加する。その結果コーディネート率は上昇し、一般学生にも魅力を伝えやすくなるを考える。今後の課題として学生スタッフに求められるのはいかに魅力を伝えながら、一般学生を巻き込んでいく力が求められる。

課題は山ほどあるが、スタッフは一般学生にボランティアの魅力や素晴らしさを伝えるためにも今まで挑戦したことのない点に目を向け試行錯誤している。特に、今年度は新一年生が多く入ったこともあり、上級生たちもしっかりと声をかけあいながら日々活動をしていた。来年度はその声を一般学生にも響くように、よりボランティアルームが身近な場所になるように改善し、自分のためではなく誰かのために率先して行動できる学生が1人でも増えるように私達学生スタッフもサポートしながら成長していきたい。

(文責：文学部国文学科4年 山口遼)

2. ボランティアルーム企画・活動報告

平成30年7月豪雨救援募金 活動報告

1 目的

平成30年度は多くの自然災害に見舞われた年だった。地震、風水害が多発し、一年を通じてニュース番組では災害に関する報道が相次いだ。その中でも大規模で私達の印象に深く訴えた、平成30年7月豪雨は多くの被害をもたらした。死者220名を越える豪雨災害は平成だと今回が初であり、「平成最悪の豪雨」とも言われている。

豪雨によって今までの生活が一変した被災者をニュースで知った。農作物が大量の雨により水分を含んだため売り物にならず、困惑した表情を浮かべる農家。家の1階が浸水したことで、泥で汚れた家具の撤去作業に追われた老夫婦。被災者は皆、先行きの見えない不安と日々積み重なる疲労で心が押しつぶされる生活を余儀なくされていた。私達ボランティアルームは被災した人々が一日でも早く日常の生活に戻るための一助となるべく、被災地復興の募金を実施した。

2 活動内容

実施日：

7月18日（水）

7月19日（木）

7月20日（金）

実施時間： 12：40～13：30

場所： 倉陵会館1階食堂前
6号館入り口付近

スタッフ： 15名

企画担当者： 上野寛登、高田玲志、田垣内利晃、中西正樹、中桐優太

3 活動報告

今年度は校内の2ヶ所で募金の呼びかけを行った。倉陵会館1階は学生食堂、コンビニ、売店が並ぶ階であり、食堂前は広々としたエントランスがある。活動を行った昼休憩の時間は多くの一般学生で賑わう。募金に協力してもらえる一般学生も多いと見込み、エントランスの一部をお借りして呼びかけを行った。

呼びかけを行った2ヶ所目は6号館は7号館8号館9号館と隣接する棟であり、講義中に教室を使う。6号館1階はテラスのような場所で食事を摂ることができ、昼休憩中には別館へ移動する学生が多く見受けられる。そのため募金を行うのに適切だろうと判断した。

スタッフの人数の割り振りは食堂前に10人、6号館に5人配置した。食堂のシステム上、食券を買うには誰もが一度財布を取り出す。「食券を買うついでに募金をしてもいいか」という募金に対する心理的なハードルを下げるためにも食堂前に人数の比重を置いた。

ボランティアスタッフはいつ募金活動を開始しても問題ないよう、事前準備を徹底させた。具体的には災害の規模を把握するため日頃からニュースを見て災害に関する情報を収集すること。当日の活動を円滑に行うため、募金箱を当日までに作成すること。食堂前と6号館の活動許可の申請。そして募金によって集まったお金はボランティアルームで管理せず、日本赤十字社へ全額寄付する申請。万全の態勢で募金に臨むため、万が一の状況に対応できるよう余裕を持った計画を立てた。

4 総括

18日に11,254円、19日は16,980円、20日は12,017円合計40,251円を寄付することが出来た。今回募金活動に協力してくれた一般学生の正確な人数は把握していない。だが、3日間という短期間でありながら、約4万円もの金額を寄付できたという結果に満足している。多くの学生が私達の活動に興味を持ち賛同してくれた証拠だろう。報道されてから素早く募金活動を開始することでボランティアルームの熱意が伝えられたのではないだろうか。

次回への課題を挙げるとすれば募金活動と並行して、私達が普段どんな活動をしているのかボランティアルームの宣伝を行いたかった。一般学生にとってはあまり馴染みのない、普段の生活では知る機会のないボランティアルームの活動だ。実際に見て体験することで少しでもボランティア活動に興味を持って充実した学生生活を送って欲しい。来年からはそのきっかけとなれるような活動にしたい。

【文責:現代日本社会学部現代日本社会学科2年 中西正樹】

ちょこっと福祉体験 活動報告

1. 目的

「ちょこっと福祉体験」は、伊勢市社会福祉協議会が主催する企画であり、ボランティアルームは伊勢社会福祉協議会と合同で企画を行い、ボランティアルームが運営を行った。今年度が3回目の活動になる。

この活動は、夏季休業中の小学生、中学生、高校生を対象としており、福祉に関する知識や協調性などを身につけることが出来る内容を考えている。また、参加してくれた大学生には、子ども達とのふれあいを通して接し方や場作りを学んでもらうことを目的とした。伊勢市社会福祉協議会とのつながりを深め、さらに継続させていくべきであると考えている。

2. 活動内容

福祉がテーマであることから昨年度同様、参加した子ども達に福祉について学んでもらうために、車イス体験、老人体験、福祉〇×クイズを行った。また、参加者の制作活動として毎年好評であるマーブリング工作を今年も行うことにした。

チームで分かれてから自己紹介をし、チーム内ですぐに打ち解けられるようにアイスブレイクゲームを体験前に入れた。アイスブレイクゲームの内容をスタッフ内で話し合った結果、高齢者の気持ちを体験してもらう「高齢者の視界体験」をすることにした。

開催日：平成30年8月7日（火）13：00～16：15

場所：皇學館大学

内容：13：00 受付

13：15 高齢者の視界体験

13：30 車イス体験 老人体験 福祉〇×クイズ

15：00 しおり作り（マーブリング工作）

16：15 解散

企画者：教育学部 1年 樋口葵

文学部 1年 神田菜月 森田麻友

現代日本社会学部 3年 杉木真子 大田芙侑

2年 山川廣太郎

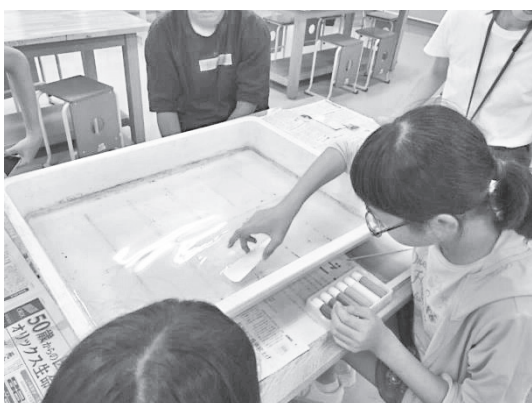
3 活動の様子



老人体験



車イス体験



しおり作り（マーブリング製作）



全体での集合写真

4 活動報告

参加者は、小学生 5 人、中学生 5 人、高校生 2 人の合計 11 人の児童、生徒であった。また、ボランティアとして参加した大学生は 11 人、ボランティアルームスタッフ 7 人、合わせて 18 人の大学生の参加であった。現代社会学部の学生が多く、福祉を深く勉強している学生が多かったため、子ども達に積極的に教えている様子から意欲がみられた。

受付の際、チームを分け、それぞれで自己紹介をする時間を設けた。初めは初対面で年齢層が広いということもあり、やや緊張した雰囲気であった。雰囲気を和ますために福祉に沿ったことをしようと考え、高齢者の気持ちを体験してもらうために「高齢者の視界体験」を行った。伊勢市社会福祉協議会さんからお借りした高齢者体験キットのゴーグルを使用し、小銭が全部で何円あるのかを手探りで当ててもらおうという体験である。体験をしていくうちに徐々に緊張がほぐれ、チームの雰囲気が和み、コミュニケーションを積極的にとろうという様子が伺えた。

自己紹介・アイスブレイク後、車いす体験をするグループと老人体験をするグループに

分かれた。

車いす体験では、初めに車いすの仕組みを知ってもらうため、実際に車いすを使って車いすの押し方や障害物の越え方などを実践してみせた。それから車いすに乗る体験、車いすを押す体験の二つの役割をグループ内で決めて、伊勢市社会福祉協議会さんと一緒に考えたコースをまわった。コースは雨天だったこともありスロープや段差を使った体験が出来なかったため、屋内で三角コーンや木材を使用し障害物のあるコースを超えてもらいながら、エレベーターに乗ってもらう体験をした。老人体験では、伊勢市社会福祉協議会さんより高齢者体験キットをお借りして参加してくれた子どもたちと一般学生たちに着けて動いてもらった。初めに準備運動として教室を2周歩いてもらい、その後ラジオ体操を行った。何もつけていない状態でなら簡単にできる動きであるが体験キットをつけることによって一つ一つの動作が難しくなる。それを実際にやってみることで高齢者の生活の大変さを理解してくれたように思う。

福祉〇×クイズは、今回グループに分かれず全体で行い、福祉に関する問題を〇×形式で15問出題して回答してもらった。例えば、「高齢者は60歳以上である」といった問題を出題した。このような福祉に関するクイズを通して、子ども達に福祉に関する知識を増やしてもらった。

これらの体験が終わった後、図画工作室に移動して、マーブリングしおり作りを行った。スタッフが説明した後に各自でマーブリングしおりを作った。最初にアイスブレイクを行った効果や体験を通して緊張がほぐれ和気あいあいと工作をしている姿がみられた。完成したしおりを参加者に配布し、教室に戻りアンケートを書いてもらい、16時15分に解散した。スタッフは残って後片付け、反省会を行った。

5 参加してくれた児童・生徒からの感想

- ・お年寄りの動くときの辛さがわかった。
- ・老人や障がい者は少し移動するだけでも大変だということを学んだ。これを生かして手助けをしたい
- ・車いすを押すことが難しいことがわかった。
- ・来年もこの体験があってほしい。

6 反省

ちょこっと福祉体験の反省は2つある。1つ目はスタッフ間の情報共有が足りていないということである。ちょこっと福祉体験を中心でやっているメンバーだけが詳細を知っており、当日手伝いで来ているスタッフは一般学生同様何も知らない状態で来ている。今回は初めて参加するスタッフが主体で説明などを行わなければならなかったため、経験が浅く一般学生や参加者を引っ張っていくことができず不安にさせてしまった。スタッフなら何

でも知っているから安心してついていける。そう思われるためにも、参加するスタッフがしっかりと情報を確認する必要がある。ミーティングの場や貼り付けの時間で事前に打ち合わせを増やし、用具の使い方や企画の説明を正確にできるようシミュレーションする時間が必須であると感じた。

2つ目は自分たちが積極的に学生や小中高生に話しかけるべきであった。緊張をほぐすためのアイスブレイクゲームを取り入れたが、そこでスタッフが率先してコミュニケーションを取るべきであった。コミュニケーションが足りないと感じた場面はマージングしおくり作りで、グループによって会話が全くないところもあった。参加者の中にはグループワークが苦手な人もいる。苦手な人でも楽しめるように積極的にスタッフから話しかける必要があると感じた。

ボランティアスタッフとして参加してくれた学生も初めてのことで緊張している。その不安、緊張をほぐしボランティアの楽しさや子どもたちと関わる楽しさを知ってもらい手助けをすることもスタッフとしての仕事である。そのために積極的にコミュニケーションをとる力がスタッフに求められることをもっと重視する必要がある。

7 ちょこっと福祉体験のまとめ

3回目の開催となったちょこっと福祉体験だが、内容の濃いちょこっと福祉体験を行えたと思う。松阪社会福祉協議会と連携して行っているサマースクールと同様、ちょこっと福祉体験もボランティアルームを代表する企画として位置づけられてきたと実感している。さらに発展し継続していくために今回の反省を踏まえ、1人1人がまずはスタッフとしての自覚と責任を持ち行動していきたいと考えている。これからも多くの学生に参加してもらえよう尽力していきたいと思う。

(文責：現代日本社会学部現代日本社会学科2年 山川 廣太郎)

サマースクール 活動報告

1 目的

「サマースクール」は、松阪市福祉社会協議会とボランティアルームが合同で企画・運営を行う活動である。今年度で 11 回目の開催になる。

この活動は、夏季休業中の小学生を対象にしており、福祉のテーマに沿って子どもたちに障がいについて知ってもらう、また創造性や協調性を身につけてもらうことを目的としている。また、ボランティアとして参加してくれた大学生には、子どもたちとの触れ合いや接し方を学べる一つの機会ともなっている。

2 活動内容

昨年度のサマースクールで、「点字ブースの説明が難しい」という参加学生の声から、各ブースの説明がしやすいよう、今年度は事前に各ブースの説明用紙を用意した。

ブースの設置前や集合時間までの間、スタッフ同士、また子どもたちとスタッフ間の緊張をほぐすため、昨年度と同様にアイスブレイクゲームを取り入れた。

サマースクールでは毎年、4つのブースを 10 分ごとに子どもが回っていく「福祉体験ゲームラリー」を行っている。昨年度は、時間に少し余裕を持たせるため 10 分ごとに回っていたところを 7 分に変更したが、4つのブースの 1つである車いす体験が時間通りに終わることが難しかった。そのため、今年度は例年通り 10 分で行った。

開催日：8月10日（金） 13：00～16：00

8月17日（金） 13：00～16：00

場所：松阪市福祉会館

- 内容：
- 1) 子どもたちに宿題を教える
 - 2) 昼食
 - 3) 自己紹介、アイスブレイクゲーム
 - 4) 福祉体験ゲームラリー
車いす体験、豆つかみ、手話当て、点字当て
 - 5) お菓子作り
 - 6) 終わりの会
 - 7) 反省会

企画者：文学部 3 年 松下翠里
現代日本社会学部 3 年 中根くるみ
現代日本社会学部 2 年 才戸俊祐
教育学部 1 年 村嶋大輝
文学部 1 年 吉田綾奈
文学部 1 年 西出美郷

3 活動報告

一般学生の参加者は 8 月 10 日（金）に 10 名、17 日（金）に 4 名であった。2 年生の学生が最も多く、「ボランティアルームからのメールを読んで参加した」という参加理由が多かった。所属学部は教育学部が一番多く、次に多かったのは現代日本社会学部であった。

サマースクール開始時間までの間、子どもたちとスタッフ間との緊張がほぐれるよう、来た子どもたちから順にスタッフと「ラインコントロール」というアイスブレイクゲームを行った。ルールは 5 人ほどのグループを作り、形が円となるよう手をつなぎあい、1 人の代表者が「前」と言ったらグループらは前にジャンプ、「右」と言ったら右にジャンプするというものである。体を動かすゲームは子どもたちから好感触だったが、盛り上がりすぎると疲労が溜まってしまうため、その点は注意が必要になると分かった。その後は、場の雰囲気も和みはじめ、目的の通りに打ち解けやすい場の空気づくりができたようにみえた。

今回の福祉体験ゲームラリーでは、車いす体験、点字当て、手話当て、豆つかみの 4 つのブースを設けた。車いす体験では、子どもたちに車いすの組み立て方を説明し、車いすを押す側と乗る側に別れ、障害物やスロープが設置されたコースを 1 周してもらい、役割を交代して体験してもらった。学生は子どもの後ろについてサポートし、子どもが怪我をしないよう注意を払った。点字当てでは、子どもたちに目隠しをしながら点字を触ってもらい、どんな形であったかを当ててもらおうゲームを体験してもらった。手話当てでは、夏をテーマとした手話を実演し、選択クイズ方式で手話の意味を当ててもらおうというゲームを体験してもらった。豆つかみでは、視野狭窄眼鏡や色彩眼鏡をかけて、指定された色の豆をお箸で掴むという体験してもらった。

学生間でも交流を行ってもらおうと、学年・学部の異なるグループを作り、各ブースを担当してもらった。また、サマースクールの目的の一つである「障がいについて知ってもらおう」福祉体験ゲームラリーを行うだけでなく、ゲームラリー終了後には体験して感じてもらったことや気づいたことを話し合ってもらう時間を設けた。そのなかには「子どもと長い時間接することができて楽しかった」、「子どもたちに教えながら、自分も障がいについて理解が広がった」などの話が聞けた。

お菓子作りでは地域のお力添えにより、餃子の皮ピザ、かき氷づくりを行った。高温のホットプレートを扱うため、子どもが火傷をしないよう目配りや声掛けを注意して行った。かき氷づくりでは、イチゴ、グレープ、抹茶の 3 種類のシロップが用意され、おかわりをする子どもたちが多くみられた。

終わりの会では、記念撮影とお菓子のつかみ取り、記念品の贈呈を行い、子どもたちにサマースクールの感想をプリントに書いてもらった。

子どもたち全員のお見送りをした後、反省会を行った。参加学生を含めたスタッフ全員から感想や反省点を発表してもらい、良かった点、悪かった点を共有した。

4 活動風景



点字当て



車いす体験



手話当て



お菓子作り

5 参加学生の声

- ・子どもたちに楽しく福祉のことを伝えることができ、良い体験となった
- ・子どもと触れあう機会がたくさんあり、楽しかった
- ・新鮮な体験ができて良かった
- ・子どもに手話を教えながら、自分も同時に手話が学べてよかった
- ・普段点字に触れる機会がなかったが、今回の体験で学んでみたいと思った
- ・覚えたものをお母さんに教えたい、と言ってくれたとき、やりがいを感じた
- ・子どもと長い時間接することができて楽しかった

6 反省

昨年度のサマースクールでは、参加学生へ事前に配布した資料がスタッフ向けの内容で、子どもに説明する上で分かりにくい部分があった。そのため参加学生から、ゲーム内容について子どもに説明するのが難しいといった意見があった。そこで今年度は各ブースの説明用紙を事前に用意した。その成果もあって、反省会では昨年度と同じ意見は出ず、うまく反省を生かすことができたと思える。

しかし、生かされたものばかりではなかった。今年度の反省会で、参加学生から「低学年の子どもには豆つかみの豆が掴みづらそうで、難しそうにしていた」という意見をもらった。これは、昨年度の反省会でも出た意見である。去年使った道具をそのまま使ってしまったため、このようなことが起こってしまった。楽しく福祉を学んでもらおうというのがサマースクールの目的であるため、この反省は重要視しなければならないと考える。

また、今回の開催における反省もいくつか挙がっている。

1つ目は、手話当てが他のブースよりも早く終わってしまうという点である。手話当ては選択クイズ方式で手話の意味を当ててもらおうというゲームだが、10分が経過するよりも早く、クイズが終わってしまったという意見が反省会で挙げられた。このことから、お題の手話をさらに増やす、解答数を増やすなどの改善が適切と思われる。

2つ目は、子どもと学生がふれあっていないときがあったという点である。初めてサマースクールに参加した学生は、活動の流れに慣れておらず、お菓子作りのときに子どもだけで作業をしていた姿が見られた。サマースクールは、学生にとって子どもたちとの触れ合いや接し方を学ぶ一つの機会ともなっているため、スタッフである私たちが積極的にサポートへ向かい、学生たちが活動に参加しやすくしなければならないと感じた。

7 まとめ

終わりの会にて、子どもたち全員にアンケートを行った。ゲームが楽しかった、ゲームをしながらいろんなことが知れた、お菓子がおいしかったなどの感想を多く頂いた。また子どもたちの中には、昨年が続いて今年もサマースクールに参加した子どももあった。無事に今年度のサマースクールをやり遂げることができたが、サマースクールを楽しみにしている子どもたちがいることを改めて思い、そのような子どもたちの期待を裏切ることがないように、気を引き締めていきたい。

ボランティアルームスタッフは、松阪市社会福祉協議会さんのお力添えのもとに企画・運営を行うことで、運営の難しさだけでなく、楽しさや達成感についても経験することができた。また、今年度は2年生・1年生のスタッフが初めて企画に参加し、彼らにとっても新鮮な経験になったと思われる。

今年度のサマースクールでは、各日10名までの一般学生の募集を行っていた。2日目の17日は、お盆と日程が重なってしまい、帰省する学生が多かったためか、定員いっぱいまで集めることができなかった。しかし、1日目は一般学生を定員10名まで集まったことから、サマースクールは小学生だけでなく一般学生からも高い人気があることがわかった。それと同時に、サマースクールは学生が初めて参加するボランティアの一つであると考えられる。今後、学生のボランティア参加を促進するためにも、今回得られた反省点を考慮し、内容をより充実したものにしていきたい。

(文責:現代日本社会学部 現代日本社会学科2年 才戸俊祐)

愛知淑徳大学 CCC とコラボ in 星が丘キャンパス 活動報告

1 目的

愛知淑徳大学のコミュニティ・コラボレーションセンター、通称 CCC（以下、CCC）さんとそれぞれの活動の紹介やボランティアについての意見交換を通して、ボランティアについて考えることを目的としている。

この企画は 1 年生の参加を重視している。理由としては長くボランティアコーディネーターやボランティアに携わっている CCC さんと交流することで、ボランティアに対しての意欲を高めてもらうことにある。また我々と同じコーディネーター業務を行っている他大学の学生と交流することでボランティアルームのスタッフとしての自覚を持たせるためである。

2 活動内容

毎年夏頃に定期的に行っている企画である。昨年は Fsus4 さんが参加していただいた。今年は例年通り、我々と CCC のスタッフのみで行った。今年はトークテーマを設けず、フリートークの時間を多く設けた。以下に詳細を示す。

日時：平成 30 年 8 月 28 日（火） 13：00～17：00

場所：愛知淑徳大学星が丘キャンパス コミュニティ・コラボレーションセンター内

内容： 13：00 交流会開始
・自己紹介

・交流会

16：30 今日を振り返って

17：00 終了 現地解散

3 活動報告

皇學館大学ボランティアルームは 6 人、CCC スタッフは 5 名で行った。最初に自己紹介を行った。その後はまずは住んでいる地域やそれぞれの大学の話などをした。そこから CCC さんの部屋の掲示物を見せていただきながら、取り組みの説明や進行中のボランティア、心に残っているボランティアなどの話をしていた。以下に主なトークテーマを載せておく。

- ・各大学の学部、特色や周りの店など
 - それぞれの大学の学部の説明をした。また自分の大学の周りについても説明した。
- ・三重県と愛知県の方言
 - 隣の県であっても違いがとても見られた。実際、CCCさんからすると我々ボランティアルームスタッフの話し方は方言が見られるなど感じているようだった。
- ・今取り組んでいるボランティアについて
 - それぞれが過去に経験したボランティアや今企画しているものなどを紹介し合った。そこでお互いが感じたことなどを話し合った。
- ・今後のボランティアの予定

など

4 参加者の感想

○ボランティアルームスタッフから

- ・愛知淑徳大学のことが知れて良かった。飾りつけとかが参考になった
- ・ボランティアルーム以外の部屋に初めて入った。同じところもあれば違うところもあってそのことを知れてよかった
- ・活動のシステムが皇學館大学と違って勉強になった
- ・他大学の人と関わりを持ててよかった

○CCCさんより

- ・三重県や皇學館大学のことを知れてよかった。3月も楽しみ
- ・どこの大学でも共通の部分はあるんだなど。初めての人も話せたので良かった
- ・ボランティアルームとCCCの共通点もあれば違いもあった。今後にかかしていきたい。

5 反省・感想

CCCさんを訪問するのは今年で5回目になる。1年生の頃から愛知淑徳大学のCCCに行かせていただいているが毎年、活動の内容や規模に驚かされる。参加したボランティアルームのスタッフからも毎年驚きの声をよく聞く。その中で1つ感じたことがある。それはCCCさんとボランティアルームを悪く比較してしまうのではないかということである。確かにCCCさんと協力されている団体や会社、自治体などを見るとよく聞く有名な名前がある。我々ボランティアルームと比較すると我々が少し劣ってしまうように感じる学生もいると思うのだ。しかし、ボランティアはそうではない。有名、無名に左右されず行ったボランティア先でどのような爪痕を残し、どのような形で依頼してくださった方々に貢献するかが大事なのである。規模が大きい、小さいで優劣など存在しないのである。

そのような当たり前のことが、1年生やもしかすると上級生にも当たり前にはなっていないとするならば、この他大学視察は非常に危険なものとなってくる。先述した比較の問題が起りかねない。この他大学視察を行う前にもう一度ボランティア先での態度や気持ち

の面を確認したうえでこの企画を進める必要があると感じている。他大学視察で、一般学生が入って来やすいための工夫など、良い比較が行えるようにしなくてはならないと感じた。

最後に毎年この企画にご協力いただき、場所を提供していただく CCC 担当の秋田さんをはじめ関係者の皆様、参加して下さった CCC のスタッフの皆さんに感謝申し上げます。

6 活動風景



交流会の様子①



動画の視聴中



交流会の様子②



交流会の様子③



集合写真

【文責：教育学部教育学科 3年 奥山 智司】

倉陵祭模擬店 活動報告

1 目的

ボランティアルームは今年度も「第 56 回皇學館大学倉陵祭」にて模擬店を出店した。この活動は地域の方々や学生にもっとボランティアルームの存在を知ってもらう、ボランティアルームを身近に感じてもらう、ボランティアに興味を持ってもらいボランティアの参加者増加と参加促進を大きな目的としている。販売を行うだけでなく、ボランティアルームスタッフ同士の連携、コミュニケーションを通してスタッフ間の結束力を向上させるものとした。売り上げの一部は『日本赤十字社』を通して被災地復興への支援金として寄付を行っている。

今年度は昨年度とは販売体系が大きく変わり、屋外の芝生広場での出店となった。2日間という短い開催期間のためどのように工夫すれば利益をうまく出すことができるかが重要な課題となった。

2 活動内容

昨年度の倉陵祭では「ポップコーン」を販売した。ポップコーンは 71 個売れ 7,320 円の利益を出すことができた。しかし、材料費以上の利益を出すことが難しく赤字となってしまったため、日本赤十字社に寄付することは出来なかった。今年度は日本赤十字社に必ず収益の 7 割を募金することを条件に模擬店を出店を行った。今年度は火を使うメニューにしたいという提案から屋外でのテント販売となった。まず、二日間という短い期間の中で利益が出やすく、手軽に作成が可能な食べ物はないかと考えた。そこで、平成 25 年度に販売した「玉こんにゃく」を復刻して販売するのも良いのではないかという意見も数多くみられた。しかし、材料の調達が難しく 1 個あたりのコストも高くなってしまったため断念した。そこで、「低コストで作成可能であり利益が出やすい」・「学生や子ども、外部から訪問された方にも食べやすい」という考えを元に、スイーツ感覚で手軽なシュガーラスクを販売することに決定した。

続いて販売するシュガーラスクの味を何種類にするか話し合った。味付きの砂糖を何種類か購入しようとしたが、専用の物が見つからなかった。そこで、一度全てのシュガーラスクを普通の砂糖味で作成し、完成したものにトースト用の味付け砂糖を使うことにした。味はストロベリー、シナモン、カカオの 3 種類にした。味を後付けすることによってフライパンを何度も洗浄する手間を省いた。

トースト用の味付け砂糖を使用した理由は、「シュガーラスクの作り方や味付けは、食パンを焼いて砂糖で味をつける」という実際どの家庭でも好かれる味にするためである。また、購入していただいた方に自由に味付けできるという特典が人気でもあった。

フライパンは 2 本用意し、1 本は水分を飛ばすための乾煎り用、もう一本は砂糖を絡める

味付け用にした。1日目はシュガーラスクを紙コップに入れて販売していたが、持ち帰りしづらいという意見があったため小袋に変更した。小袋に変更したことにより、味付け砂糖をまんべんなくラスクに付けることができた。

シュガーラスクの作成だけでなく、テントの設営や机、テーブルの設置、手持ち看板を持ちながら宣伝など様々な作業を役割分担し活動を行った。

開催日： 10月27日（土）9:00～販売開始

～18:00 販売終了（ゴミ回収・片づけ）

～19:00 撤収

10月28日（日）9:00～販売開始

～16:00 販売終了（ゴミ回収・片づけ）

～18:30 撤収

場所：皇學館大学内芝生広場

内容：倉陵祭で模擬店を出店し、シュガーラスクの販売の利益の7割を寄付する。

販売値段：1カップ200円

販売者：ボランティアルームスタッフ

責任担当者：山口遼、松下翠里、村林寛隆、才戸俊介、出馬萌

3 活動報告

今年度は二日間とも快晴となり、外部から多くの来訪者がボランティアルームの販売所に足を運んでくれた。1年生10名・2年生3名・3年生4名・4年生1名が調理や販売などを行った。担当スタッフ以外にもルームスタッフが販売のサポートを行った。手持ち看板を持ちながら宣伝する係と、調理・販売の係に分け、時間ごとに交代しながら活動を行った。

まず販売するシュガーラスクの概要に移る。

まず、一口サイズにカットされた食パンをフライパンで乾煎りをする。これは食パンの水分を飛ばし、触感をカリカリにするためである。次に、味付け用の食パンに少し油を引きラスクを炒めながら砂糖と絡めていく。最後に紙コップに盛り付けて販売を行った。2日目は持ち帰りを容易にするため紙コップから小袋に変更し販売した。

また、今年度は販売テントの空いているスペースにボランティア申し込みや情報の閲覧ができるように小さなブースも設置した。

収支の詳細については表に示す。

支出

材料費	3,404 円
合計金額	3,404 円

収入

売り上げ金	63,780 円
合計金額	63,780 円

支出	3,404 円
収入	63,780 円
純利益	46,780 円

4 スタッフからの意見

- ・予想以上に売り上げを出すことができた
- ・役割分担をしっかりとすることにより効率よく動けた
- ・リピーターがとても多かった
- ・ボランティアブースに興味を持つ人が多かった
- ・調理工程や味付けも完璧に仕上げた

5 反省

今年度も倉陵祭での模擬店を出店することになった。一番の目的である収入の 7 割を日本赤十字社に寄付することも完遂した。しかし反省する点はいくつかある。

まず、シュガーラスクは 1 日目 206 食・2 日目 112 食。合計 318 食を販売した。しかし、400 食販売することができなかった。これは模擬店の出店を決める際に、利益を出すという事だけ考えるのではなく、何食売るのが目標を決めなかったことが大きな原因だろう。そのため 313 食とあいまいな販売数になってしまった。

次に、今年度は油や火を使うため、屋外でのテント販売となった。今年度から新たにボランティアブースを設置した(6 活動風景写真ブース設置参照)。しかし、ボランティアの申込件数が 1 件のみであった。これはもう一つの目的である「倉陵祭でシュガーラスクの販売を通してボランティアルームの存在を知ってもらうこと」という目的を達成できたのだろうか。ボランティアブースを設置したのには理由がある。今年度までは、テントの半分を販売所にし、もう半分をパンフレットや報告書を設置し自由に持ち帰りできるようにしていた。しかし、設置を行っているだけで配置した部数は捌けていなかった。これでは販売で利益が出たとしても、ボランティアルームを知ってもらえないのではないだろうか。そこでボランティアの申し込みができるように、申し込みがその場で可能にした。また、1ヶ月ごとに決まったスタッフが同伴する月別ボランティアの宣伝も行った。今年度は参加申

し込みが1件のみだったが、来年度も継続しながら少しでも訪れた人々にボランティアルームの魅力を伝えてもらいたい。

また、以前ボランティアルームに依頼をしていただいた施設の職員の方も訪問され、「今後もボランティアルームを通して多くの学生にボランティアに来てほしい」との意見を頂いた。このような意見にも満足してもらえるようにスタッフが率先して活動してもらいたい。

6 活動風景

模擬店参加スタッフと販売所



ボランティアブース



調理中の様子



集合写真



【文責：文学部国文学科4年 山口遼】

「老人ホームでLet`s文化祭」 活動報告

1. 目的

老人ホームでLet`s文化祭は、昨年度に引き続き今年で3年目の開催となる。毎年、子どもを中心とした企画は行われている。子どもが参加するお祭り、学習支援等のボランティアも多く依頼されている。しかし、教職に就くためには介護等体験が必須となっている。また、福祉分野の就職を考えているがなかなかそのような機会がない。老人ホームでの企画を通じて幅広い年代の方々と触れ合うことができるように、またその貴重な機会としてコミュニケーションがより取りやすい機会を作り、交流しやすい環境を作れるように企画した。今回は前回の反省・経験を活かしながら、学生と利用者さんがより関わることのできる文化祭を目的として、企画・運営を行った。

2. 活動内容

昨年の活動で企画に参加をお願いする部活動を1つにしたことで時間や活動がうまく進められたことを活かして、部活動の発表を1団体にした。部活動の発表を見ながらボランティア参加者と利用者さんの緊張をほぐすことが狙いである。また、今年は昨年度のフォトフレーム作りからカレンダー作りに切り替えた。これは前回の反省の中でフォトフレームは、利用者さんはあまり使わず、普段から使用する機会の多いカレンダーのほうが良いのではないかという意見があったことによる。そこで、カレンダー作りに変更した。カレンダーの日付が貼られた模造紙を用意していただき、ボランティアルームスタッフはカレンダーに貼る飾りを画用紙で制作した。

日時：平成30年11月10日（土） 13:00～16:00

場所：介護付有料老人ホームくらたやま

企画者：渡辺楓・奥山智司・岡崎なみき・池田千夏・中子恵里花・本田果穂

内容：	13:00	施設内の飾りつけ
	13:30	開会式・雅さん演舞
	13:50	雅さん演舞終了 お菓子を食べながら休憩
	14:30	カレンダー作り開始
	16:00	閉会式

3. 活動報告

今回は一般学生が1名、スタッフが8名の計9名とよさこい部 “雅” (以下、雅)9名が参加した。

まずボランティアルームスタッフの数名が早めに会場へ行き、会場内を飾りつけた。その後一般学生と雅の方々も合流した。開会式のあと雅の演舞に移った。一般学生とスタッフは利用者さんと一緒に演舞を見ていた。雅さんは毎年ボランティアルームとは別で演舞を行っていることもあり、利用者の方々は笑顔で楽しそうにリズムに合わせて手をたたいている姿も見られた。約20分の演舞をしていただいたあと休憩としておやつ時間を設けた。ここで利用者さんと一般学生、ボランティアルームスタッフはコミュニケーションを取りながら一緒にお菓子を食べた。学生と利用者の話が弾んでいる様子がみられ、和やかな雰囲気であった。そして、14時30分頃にカレンダー作りに移った。今回は模造紙にカレンダーの日付を印刷したものを張り付けたものをくらたやまの担当者の方に作っていただいていた。そこにボランティアルームスタッフが作った装飾品をのりで貼り付けていくというものである。学生は利用者の方が作る様子を見ながら、完成するお手伝いをした。16時頃まで制作を行った。

その後、閉会式をして会を終え、一般学生とボランティアルームスタッフで後片付けを行い終了した。カレンダーは壁にかけて利用しているようである。

4. 活動風景



雅さんの演舞



お菓子を食べながら交流



カレンダー制作①



カレンダー制作②

5. 参加学生からの感想

- ③ 普段話せない年代の方と接することができ良い経験になった。
- ③ 利用者の方から楽しいと言っていただき嬉しかった。
- ③ 一般学生からの質問に答えることができなかった。
- ③ 段取りをもっと詳しく把握しておきたかった。
- ③ 利用者の方との接し方のアドバイスを頂けてやりやすかった。
- ③ 飾りの量が少ないように感じた。

6. まとめ・反省

まず日程に関しては、土曜日に設定したことで講義と重なってしまったため、参加することができない学生ができてしまった。今後は、講義なども考慮して日程を決めていきたいと思う。また一般学生の参加率の低さについては、今後は食堂前での呼び込みやSNSを活用して一般学生の参加率の低さを改善していきたい。

当日の流れに関しては部活動を1団体にし、フォトフレーム作成からカレンダー作成に変更した。これにより作業の量や細かさが改善され、利用者の方が疲れることなく、最後まで楽しんでいただきながら進めることができた。

全体の雰囲気としては、楽しく活動を行うことができているように感じた。しかし、スタッフ同士の情報共有ができていなかったため、焦りや不安を感じてカレンダーを作る流れが把握されていなかった。そのため、時間内にスムーズに制作することができなかった。また、カレンダーづくりの飾りが少なく足りないという初歩的なミスを犯してしまった。そのため、追加で飾りを作っていただく形となった。

今回は反省するべき点が多くみられた。ただ、昨年に引き続いての企画であるため、反省点を改善し、今後も継続していきながら様々な世代の方々と交流していく経験を積んでいきたい。

【文責：文学部国史学科2年 渡辺楓】

伊勢市ボランティアセンターフェスティバル 活動報告

1 目的

平成 28 年度から、伊勢市社会福祉協議会（以下「伊勢社協」する）が新しいイベントを開催した。その具体的なイベント内容を議論する実行委員会に、ボランティアルームスタッフがいらさせていただくことになり、代表で 3 年生の杉木が選ばれた。

イベントの目的は、近年多様化しているボランティア活動の情報を提供し、支え合いの意識を高め、市民にボランティア活動へ積極的参加を図ることである。このイベントはボランティアルームを含む伊勢市内の多くのボランティア団体にとって日々の活動を知っていただけるだけでなく、団体同士の新たなつながりができる貴重な機会になると考えられた。

2 活動内容

6 月より実行委員の会議が始動し、イベントの骨組みは伊勢社協が決め委員が肉付けしていくという流れで進められた。イベントのスローガンは伊勢社協の登録団体から募り「楽しもうフェスティバル 楽しもうボランティア」が選ばれた。

イベントには伊勢市ボランティアセンターの登録団体がブースを出展することになった。さらに、ステージで 9 団体が実演し、日々の活動等を紹介することになった。

また、地震体験車、モバイルファーマシー、茶の湯体験、プラバン体験スペース、子ども向けのスタンプラリー等を実施することに決定した。

日時や詳しい内容は以下の通りである

開催日：平成 30 年 11 月 18 日（日） 9：45～14：15

場所：伊勢市ハートプラザみその

主催：伊勢市社会福祉協議会

内容：1) オープニングセレモニー（和太鼓伊勢 天翔）

2) ボランティアセンター登録団体ブース出展

3) ステージ実演

4) 地域貢献ブース

5) 関係団体ブース出展

6) 茶の湯体験

7) 地震体験

8) モバイルファーマシー

9) 三重県歯科衛生士会ブース

- 1 0) FC. 伊勢志摩ブース
- 1 1) プラバン体験
- 1 2) 三重ボランティア基金ブース
- 1 3) 羽毛プロジェクトブース
- 1 4) キャラクター大集合
- 1 5) ボラセン GO!! (体験型スタンプラリー)
- 1 6) フードコート
- 1 7) ポップコーン無料配布
- 1 8) 就労支援施設販売コーナー
- 1 9) 閉会セレモニー (皇學館大学吹奏楽団)

当日の参加の前にボランティアセンターフェスティバルの実行委員会が数回行われ、ここではパンフレットの構成やスタンプラリーの子ども達の回り方等を協議した。具体的な内容まで協議したため、円滑に進むことができた。

「ボラセン GO!!」と題したスタンプラリーは、小学生までの子ども達が体験しながら、福祉を学んでいくことができるブースが決定された。

3 活動報告

イベントの来場者数は、パンフレットの配布実績等から 4,139 人と発表されたが、実際にはそれ以上の来場者があったように感じた。来場者の年齢層は幅広く、会場は大いに賑わった。

ボランティアルームからは、ブースでの接客役とイベント運営係としてスタッフ 9 人が参加した。イベントの運営係として主に任された仕事としては、スタンプラリーの用紙の配布、ボランティアルームの説明、総合案内所での対応、フードコート、カメラ係等であった。多様な役割を担ったことにより、ボランティアルームのスタッフは多世代の方と係を通して交流を持つことができたと感じた。

ボランティアルームが出展したブースに興味を持ってくれる人は多く、地元伊勢市での名前での認知度向上に大きな手応えを感じた。しかし、今回は点字で自分の名前を紙に塗ってもらうという体験をとり入れたことにより、ボランティアルームの説明が手薄になってしまった。

4 まとめ

伊勢社協が主催しているイベントの実行委員会にボランティアルームスタッフを参加させていただいたこと、そしてブース出展をさせていただいたことは、ボランティアルームにとって大きな一歩になったことは間違いない。ボランティアルームは伊勢市にあるにも関わらず伊勢市での認知度が低く、それを問題視してきた。今回のイベントでは、伊勢市

に住む方々に直接自分たちを紹介し、伊勢市で活躍している団体とつながるきっかけになった。だが、このきっかけを活かすことができなかつたと考える。今後このイベントに参加させて頂けるのであれば、ボランティアブースを出展している他の団体さんと交流していくことが大切であると考え。今まで関わりのなかつたボランティア団体とコミュニケーションをとり、ボランティアルームの存在を知っていただくことで新しい刺激をもらい、次世代を自分たちが担っていくという成長のきっかけを得ることができると考える。

ボランティアルームの力はまだまだであるが、地域のために自分たちが力を発揮できるよう、若者の先頭に立ち人々の輪を広げるサポートをすることこそがボランティアルームの使命であると改めて感じたイベントであった。

5 活動の様子



(文責：現代日本社会学部現代日本社会学科 3年 杉木真子)

平成 30 年度 ボランティアルーム年間報告会

1 目的

ボランティアルームの1年間の活動を、各企画の代表者を中心に報告し振り返る。1年間の活動を振り返り反省することにより、今後の課題を明確にし、目標を立て来年度の活動を意義の有するものにするを目的としている。また、各企画などの活動を全学年スタッフで振り返ることにより、企画担当者以外の全員が活動内容への理解を深めることをねらっている。

2 活動内容

毎年2月頃にお世話になっている伊勢市社会福祉協議会さん、三重県社会福祉協議会さん、松阪市社会福祉協議会さん、NPO 法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターさんの職員の方々をお呼びして、平成29年度に行った企画・ボランティアの報告・反省を一企画ずつ行い、ボランティアルームが今年1年間でどのような活動・企画をしてきたのかを報告し、質問やアドバイス等を頂き、来年度に活かせるようにと計画した。また全報告が終了したあとに、各社協の方々と学生スタッフでグループに分かれて、「リスクマネジメントの徹底」をテーマに各グループで討論し、発表することにした。

開催日時：2月14日（木）13時30分～14時30分

場所：皇學館大学 712 教室

内容：①代表あいさつ

②コーディネート報告

③今年度の取り組み

- ・季刊誌
- ・西日本豪雨救援募金活動
- ・倉陵祭
- ・アンケート結果報告

④企画

- ・秋企画～老人ホームで let's 文化祭～

⑤連携

- ・ちょこっと福祉体験
- ・サマースクール
- ・他大学視察
- ・伊勢市ボランティアセンターフェスティバル

⑥交流会

⑦代表あいさつ

⑧教員あいさつ

企画者：国文学科	4年	山口遼 上野寛登
国史学科	3年	松下翠里
	2年	渡辺楓
現代日本社会学科	3年	杉木真子

3 活動報告

当日は 5 名の方に参加していただいた。名簿は以下の通りである。

- ・伊勢市社会福祉協議会 石飛さん
- ・松阪市社会福祉協議会 中西さん
- ・三重県社会福祉協議会 北出さん
- ・NPO 法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター 野口さん
- ・皇學館大学ボランティアルーム OB 大森さん

代表のあいさつとして文学部国文学科 4 年の山口遼が集まっていた方々に挨拶をした。次にコーディネート報告、今年度の取り組み、企画、連携と順に活動報告をしていった。各報告、反省については報告書にて記載してあるため、ここでは当日の発表者とともに簡単に企画の内容についてまとめていきたいと思う。

- ・コーディネート報告 (国文学科 4 年 山口遼)

今年度のメール登録学生の数やボランティア件数、ボランティア参加学生の数など今年度のボランティアルームのコーディネート活動についての報告を行った。

- ・季刊誌 (現代日本社会学科 3 年 大田英侑)

学生用(夏・秋・冬号)はとしては 20 部。社協用(夏・秋号)には 40 部ずつ作成し、ボランティアへの参加促進やボランティアルームの存在・活動を知ってもらうために発行している。

- ・西日本豪雨救援募金活動(現代日本社会学科 2 年 中西正樹)

平成 30 年 7 月に西日本を中心に全国的に被害のあった豪雨災害。1 日でも早い復興のために学内で募金活動を行った。

- ・倉陵祭 (国文学科 4 年 山口遼)

10 月 27 日、28 日に開催された倉陵祭にてボランティアルームはシュガーラスクを販売した。その売り上げの一部は被災地の復興の為に日本赤十字社を通じて寄付させていただいた。

- ・アンケート報告（国史学科 3 年 松下翠里）
ボランティアに対する意識調査を図り、今後のコーディネート業務に活かしていくこと。
また、ボランティアルームのサービス向上と学生のニーズを図るために行っている。
- ・秋企画～老人ホームで Let`s 文化祭～（国史学科 2 年 渡辺楓）
高齢の方々と触れ合う機会を増やすために、介護付老人ホームくらたやまさんと合同で
開催している企画。今年で 3 回目の開催となる。
- ・ちょこっと福祉体験（現代日本社会学科 2 年 山川廣太郎）
夏休みに小・中・高生の児童・生徒達と一緒に福祉について学ぶため、伊勢市社会福祉
協議会さんと合同で行っている企画。今年で 3 回目の開催となる。
- ・サマースクール（現代日本社会学科 2 年 才戸俊祐）
夏休みに福祉について小学生と楽しく学ぶために、松阪市社会福祉協議会さんと合同で
行っている企画。今年で 11 回目の開催になる。
- ・他大学視察（教育学科 3 年 奥山智司）
他の大学でボランティアルームと同じように学生が主体となって活動している大学と交
流することによって、コーディネートの方法であったり、ボランティアに対しての考え
方を意見交換することによって、今後のボランティアルームにも活かしていこうと企画。
今年はい知淑徳大学の CCC さんと夏と冬の 2 回交流を行った。
- ・伊勢市ボランティアセンターフェスティバル（現代日本社会学科 3 年 杉木真子）
イベントの実行委員として 3 年の杉木が会議等に参加させていただき、当日は杉木を除
いたスタッフ 8 名が運営スタッフとして参加し、ボランティアルームのブースや総合案
内等の活動を行った。

次に交流会として 4 グループに分かれて、「リスクマネジメントの徹底」について話し合い発
表しあった。以下はそのときに出された意見である。

〈伊勢志摩バリアフリーツアースタッフセンター班〉

●経験（失敗）

（失敗をしたとしてもその失敗がなぜ起きてしまったのかをきちんと考えて、次からは
その失敗をしないようにする。何事も経験することが大事である。）

〈伊勢市社会福祉協議会班〉

●メールの誤送信→メンバー間の確認

(メールを送る前にその場にいる学生スタッフに確認してもらう。)

情報共有不足→ホワイトボードの活用

(スタッフノートだけでは、仕事や情報を見落としてしまう部分があるので、ホワイトボード(みんなが見える場所)に伝えたいことえ書くことによって、情報を共有する。)

スキルアップ→みんながボランティア内容を理解

(ルームに来たら毎回現在どのようなボランティアがきているのかを確認、またスタッフ自らもメール登録を行い、いつでもボランティア情報が見れるようにする。)

〈松阪市社会福祉協議会班〉

●情報発信におけるマネジメント

・表現の仕方/正確性/ホウ・レン・ソウ/情報の管理

(ボランティアルームの仕事で一番大事な事は、ボランティアのコーディネーターである。

そのコーディネーターの方法を再度見つめなおす必要がある。表現の仕方を工夫したり、正確なボランティア情報を学生に伝えること、またスタッフ間での「報告・連絡・相談」をかかさず行い、個人情報扱う場面を多くあるため、情報の管理はしっかりと行う。)

〈学生班〉

●ルーム全体の注意/全体の意識づけ/複数人で仕事を取り組む/情報の提示(SNS、写真手書き) /通知 ON に！/対策を考えておく 全体で意識！！

(学生スタッフが再度スタッフとしての自覚をもち、一人で仕事や企画をするのではなく、複数人であることによって、見落としや確認不足がなくなる。またボランティア情報の発信に関して、現在掲示は全てパソコンで簡潔にまとめ掲示しているが、それを手書きであったり、ボランティアの様子を写真と一緒に載せることによって、情報が分かりやすくなる。)

ボランティアルームは、社会福祉協議会さんや介護施設などからボランティアの依頼を頂き、それを学生に伝えるというボランティアを求める人とボランティアをしたい人を繋げる役割を行っている。その繋げるという役割に関して今年度はミスが多かったように思う。ボランティアの締切忘れ、一般学生への連絡ミス等、ルームの信頼に関わるミスが多かったように思う。コーディネーターの仕事をする上で、信頼関係はかせない。信頼を失ってしまったらボランティアルームは成り立たない。そこでリーダーで話し合いこのようなミスがないように、今一度スタッフとしての自覚を持ってもらうためにリスクマネジメントについて話しあい、コーディネーターのプロである社協の方達に教えていただこうと企画

した。

話あいの中で各チームまずは自分が思うリスクマネジメントについて考え、それを発表し各チームで考えをまとめてもらった。ルームスタッフの中でもこのように自分の意見を言うという機会はなかなかないため、すごく貴重な場になったのではないかと思う。

最後に代表あいさつとし国文学科 4 年の山口遼が、教員あいさつとして叶先生より挨拶をいただき終了した。

4 活動風景



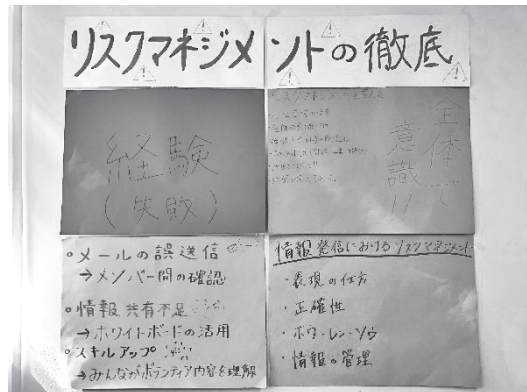
報告の様子



交流会の様子①



交流会の様子②



交流会にて出された意見

5 まとめ

報告会では、今年度のボランティアルームの企画や活動について報告をした。報告をすることによって、1年生や企画に中心として携わっていない人達にもより詳しく企画について情報を共有できたのではないかと思う。しかし、年間報告会の時点で企画の内容・反省等を知っているには意味が無い。企画がある時期にきちんと全スタッフが内容について把握していなければならない。今回の反省でどの企画においても反省点として「スタッフ間の情報共有不足」という課題が挙げられている。スタッフでの情報共有がきちんとできていないとコーディネート活動もきちんとできない。ボランティア当日にスタッフが何も知らないという状況はあってはならないのだ。今後は「報告・連絡・相談」をきちんと行い、情報を共有していくことをまずは心がけていきたい。

また、社協の方々からコーディネートの方法であったり、私達もボランティアルームと同じ悩みがあるといったように質疑・応答の時間や交流会を通してお話することによって、スタッフ一人一人が改めてボランティアルームについて、またスタッフとしての自覚を見つめ直す良い機会になったのではないかと思う。報告会でスタッフ一人一人が感じたことをルームに持ち帰り今後のボランティアルームの活動に活かしていきたいと思う。

最後になりましたが、ご多忙の中参加していただいた伊勢市社会福祉協議会さん、三重県社会福祉協議会さん、松阪市社会福祉協議会さん、NPO 法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターさん、皇學館大学ボランティアルーム OB の大森さんにはボランティアルームスタッフ一同感謝を申し上げます。今後も、皇學館大学ボランティアルームがより一層精進していくため、ご指導の方をお願い致します。

【文責：文学部国史学科3年 松下翠里】

愛知淑徳大学 CCC とコラボ in 伊勢 活動報告

1 目的

この企画は今年が2回目である。前年、愛知淑徳大学のコミュニティ・コラボレーションセンター通称 CCC（以下、CCC）さんの担当の方と愛知淑徳大学で交流会を行った際に今年も伊勢でやりたいというお話をいただいていた。今年も無事に行うことができた。

目的は大きく分けて3つある。

1つ目は、いつもは私たちが CCC さんのセンターを見学し、掲示の仕方やボランティアを提供する空間としてたくさんのことを学ばせていただいている。そして今回は CCC さんのスタッフにボランティアルームを見学をしていただいて第三者的な立場として掲示や部屋の雰囲気などを見ていただくことである。

2つ目は、年度末であるので各自の今年の活動を振り返りながらボランティアについてやコーディネートについて考えることである。今年度の残った課題や解決できたこと等の交流ができればと考えている。

3つ目は、毎年お世話になっている CCC の方々に皇學館大学の学生である我々の生活している街の雰囲気なども感じていただきたいということである。やはり名古屋の方々からすると伊勢は遠く感じるようである。であるとすれば、伊勢ならではの空気などを味わっていただきたい。

以上の目的を踏まえたうえで、学生の交流という機会を作り、ボランティアのことだけでなく三重県と愛知県の方言や地元に関する話など積極的な交流をして、各参加者が多くの気付きを得られればと思い計画した。



2 活動内容

前年、夏にボランティアルームは CCC さんと交流会を行ってきた。その際に伊勢で行うときにもぜひ参加したいという声が多数あった。それを受けて今年も行うことになった。

午前中は交流会、午後から伊勢神宮参拝という計画をした。昼食は手こね茶屋さんでいただいた。手こね茶屋さん、伊勢神宮への移動はボランティアルームスタッフ、CCC それぞれ1台の計2台で移動した。また交流会に関して、内容は各自の抱えている問題点や課題を共有し、解決策を共に模索していく場になればよいと思い設定した。当日は5号館のトイレの改修工事のため騒音の問題が考えられた。そのため教室はボランティアルームから遠くなってしまいが711教室で行うことにした。以下は当日の内容である。

日時：平成31年2月19日（火）

10：00～16：00

場所：皇學館大学 711 教室、ボランティアルーム、手こね茶屋本店、伊勢神宮

内容： 10：00 交流会開始

・自己紹介

・交流会

12：00 昼食（手こね茶屋 本店）

13：00 伊勢神宮参拝、おかげ横丁散策

16：00 伊勢神宮内宮前にて 解散

3 活動報告

今回の参加者はボランティアルームから7名と山際さん、CCC さんからは学生が4名とスタッフ1名の計12名で行われた。この中で CCC さんのスタッフの1名が車いすの方であった。今年の交流会はグループで話し合う形はとらなかった。理由は夏ごろに愛知淑徳大学さんに行かせていただいた際に CCC さんのスタッフはそれぞれ皆さんが自分の取り組みたいと思うことを決め、団体を作ったりしてボランティアを行っていることが分かった。つまり、CCC さんのスタッフでも活動が大きく異なる場合があるということである。グループにしてしまうとそのような経験を組み合わせによっては聞けない可能性がある。そこで人によって異なる経験を全体で共有し、様々な視点でボランティアについて考えを深めたいと考えたからである。

○交流会での話題提供

・ボランティアルーム、CCC さんの歴史

→ボランティアルームでは毎年発行している年間報告書とパンフレットを見てもらいながら説明を行った。CCC さんからは口頭での説明であったが、それでもとても分かりやすく活動内容と今の状況を教えていただいた。やはり各々のスタッフが熱意を持って取り組んでいるということが分かった。

・CCC さんのボランティアルーム見学

→まず CCC のスタッフが注目していたのがココロの木であった。ボランティア参加者に直接感想を書いてもらうことはとても素晴らしいことだと言っていた。またこれを一般学生にも見えるようにすると良いかもというアドバイスもいただいた。また全体的に手作りで作られているのは温かくて印象が良いと言っていた。

・ルーム、センターの問題点と今後に向けての改善策

→ボランティアルームと CCC さんの共通する問題点として挙げられたのが、一般学生から「入りにくい」という声があるようだった。CCC さんの場合はセンターの前の椅子や机が置いてあるスペースを上手に使いながら、始めはボランティアに興味を持っていない学生でも声をかけてとりあえず中に入ってもらおうということをしている、ということであった。また入ってもらったあとも、すぐにボランティアの話をするのではなくてまずは世間話などをして緊張をほぐしていくということであった。中に入ってくることを待つ、受け身の姿勢では何も変わらないので、どのような形でもいいのでこちら側から迎え入れる姿勢が大事ということであった。

・お互いの地元のことについて

→基本的に皇學館大学は三重県出身者が多く、CCC のスタッフさんは愛知県出身が多かった。隣の県ではあるが方言などで違いも見られた。

・お互いの大学の歴史とその周辺について

→皇學館大学はやはり神道系の大学という印象が強いらしかった。
CCC さんはキャンパスが2つあるため、その違いについても教えていただいた。

4 参加者の感想

○ボランティアルームスタッフから

- ・改めてボランティアルームに来てもらう方法を考えることができた。
- ・他大学の学生とお話できて様々な発見があった。もっと色々な学生とお話したくなった。

- ・参加者の声をどの学科の人が行ったかを分かるようにするであったり、ボランティアに参加した人の写真やコメントをルームの外に飾るなど具体的な案が得られて良かった。
- ・年間報告会の時のように1つテーマを決めて話し合えばもっとよかったと思う。

○CCC さんより

- ・CCC と皇學館大学で共通の課題が見つかることができた。来年以降も協力しながらそれを改善できたらなと感じた。
- ・伊勢うどんなど、伊勢の名物を食べられて良かった。
- ・ボランティアルームさんのお部屋を見学させていただいて CCC とは違うところも多くあり参考にしたい。

5 反省・感想

今年は2回目の愛知淑徳大学の方々の来校であった。当日は雨となってしまったことから移動に難が出てしまった。交流会では CCC さんとボランティアルームの共通の課題として一般学生に「入りにくい。」と言われているということが分かった。個人的には「CCC さんの部屋でもその声があるのか」ととても驚いた。まずは部屋に入ってもらわないとコーディネートは行えない。その中でどのように入ってきていただくか、これは私たちが1年生の時から挙げられている課題である。共通の課題が見つかったので今後も意見交換をしていながら改善をしていきたい。

そしてお昼とその後の伊勢神宮参拝は雨ということもあり必要最低限の行動となった。また参加者の一人に車いすの学生がいらっしやった。この学生は前回の夏にも参加をしていただいていたので、私も参加メンバーを伺う際に聞いておけばよかったのだが、忘れてしまった。結果として手こね茶屋は店に上がる際に階段と段差が多いのだが、そこに昼ご飯の予約をしてしまった。車いすの方が来ることを知っていれば、バリアフリーなお店にすることも可能であった。これは自分の準備不足と言える。本人はとても優しい方で「全然大丈夫」とおっしゃってくれていた。それにはとても助けられた。お昼ご飯は手こね茶屋で各自が好きなものを注文する形をとった。名物合わせがとても人気だった。その後は伊勢神宮の内宮に参拝に行く予定だったが雨のためとりやめ、おかげ横丁の神話の館に行き、お土産を購入し解散した。

今後の開催に向けては、まず目的を明確にすることである。指導案を書いてとまでは言わないがしっかりと目的を持って、何をさせたいかというのをしっかりと決めた上で企画をすることが重要であると改めて感じた。目的を持って計画をすることでより有意義な時間に行うことができるだろうと考える。

最後に、朝早くから来ていただいた CCC の学生スタッフの皆さん、そして長い時間の運転、その他企画のフォローなどたくさんしていただいた秋田さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。今後ともボランティアルームをよろしくお願いします。

6 活動風景



交流会の様子①



交流会の様子②



昼食の様子①



昼食の様子②



集合写真



黒板

〈出典〉

(1) <http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/>より

【文責：教育学部教育学科 3年 奥山 智司】

季刊誌 活動報告

1 目的

季刊誌は学生用のものと学外用のものを作成し、どちらも情報発信を共通の目的としてそれぞれ内容を考えている。

皇學館大学の学生用季刊誌にはボランティア情報や参加した学生の声を入れ、ボランティアへの参加を促すことを目的としている。社会福祉協議会等を通じ配布している学外向け季刊誌には、ボランティアルームの存在・活動を知ってもらえるような内容にしている。

2 活動内容

昨年度よりもミーティングの回数を増やし、情報共有や相談の場として SNS を活用した。また、平成29度には発行しなかった学生用冬号を今年度は発行する事にし、一度に発行する部数を30部から20部へと減らした。

内容は募集中のボランティアを締切日と共に一覧にして記載し、オススメのボランティアを宣伝、募集中のボランティアを一覧にするなどした。また終了したボランティアの様子を写真や感想をもとに紹介した。

学外用の季刊誌は今までの県社協、松阪社協、伊勢社協、バリアフリーセンターの4団から、四日市社協を加えた5団体に向け10部ずつ発行した。

内容は学外の方々にボランティアの依頼をお願いする内容を記載した。また、ボランティア予告、報告の他、参加者数やボランティア依頼数などをグラフや表をつくり、数字で分かるよう意識した。

3 活動報告

学生用	発行月	発行部数	配布数	残部
夏号	6月	20部	15部	5部
秋号	10月	20部	7部	13部
冬号	1月	20部	8部	12部

今年度も2号館1階ボランティアルーム前と6号館1階の掲示から学生が自由に手に取る形式で配布した。

学生用の残部数を見てみると、夏号は15部学生の手元にわたっている。しかし、それ以降の秋号と冬号は7部と8部と発行数の半分以下であった。

これは夏から秋、冬にかけてボランティアの数が減っていく、発行期間が長期休みと重なってしまうなどの原因と、コーディネート件数や、メール登録者数の低下とも関係しているのではないかと考えている。

また、一度手に取った跡のある冊子が残部の中から見つかった。残部が少ないからとっていきづらいのか、スマートフォン等で写真を撮って戻したのか理由はわからないが、残部と閲覧数は比例していないのかもしれないという可能性がある。

学外用季刊誌は配布団体を1つ増やし、5団体に10部ずつの想定で50部発行した。実際に配布したのは4団体、内伊勢社協に20部配布。想定した新しい配布団体の四日市社協は来年度配布予定である。

4 反省と課題

1) 発行部数について

学生用20部発行し、2か所に10部ずつ配布していた。昨年度の残部と発行回数が増えたことから少し減らしての発行だったが、今年度の残部も昨年と大差ない。このままの部数で行くのか、少ないと取りづらいのではないかという意見を参考に増やすべきか一度話し合う必要がある。

学外用は5団体10部ずつ計50部発行、配布数は4団体40部であった。来年度はすべての団体に届けたい。

2) 内容について

学生用は表紙、中身の工夫が必要だと考える。「目を引き・見やすい・わかりやすい」を重視して作っていききたい。スタッフ間でも試行錯誤し、学生から求められている内容をリサーチしていかなければならない。

学外用に載せたデータは簡単な集計数を表やグラフで載せられる限り載せる意識をしていたが、もう少し質のよいものにしていきたい。

3) 配布方法について

残部は昨年度と差異はなかった。出た意見としては単純に学生の目に留まっていなかった。残部が少ないから遠慮してしまうといったものだ。来年度は今年度と同じように発行し様子を見ようと思う。また、一番残分の多い冬号は春休み直前の発行を大幅に早め、1ヶ月は学生の目に触れるようにしていく。

そして新しく春号を製作しようと考えている。発行数は未定だが通常より少なくして配布。加えて、見開きの2ページに春休み中の情報をまとめ、その場で見るためのものを掲示をしたい。

どちらが学生にとって情報が伝わりやすいのか、目に付きやすいのか、学生のニーズを知るために来年度はアンケートで季刊誌についても聞きたいと考えている。

5 まとめ

今年度は内容や発行数など新しくしたいことがいくつかあった。そのうちの内容はまだ工夫の必要があると考えている。引継ぎや情報共有に SNS 以外に専用のノートやミーティングの機会などをなるべく多く設け、発行時期なども制作スタッフやボランティアの依頼されるタイミングなど見ながら変えていきたいと思う。学生用の内容工夫には一般学生からの感想や意見も集めることが必須だと考える。また、今年度不足していたことや気になったことなど、制作メンバーで意見を出してより良いものにしていきたい。

【現代日本社会学部現代日本社会学科 4年 大田 芙侖】

3. アンケート報告

平成 30 年度メール登録者対象アンケート報告

1 目的

今年度もボランティアルームの活動に対するアンケート調査を行った。アンケートを行う目的としては、普段のコーディネート業務の中では聞くことのできない学生の生の声を聞きだし、スタッフの目線からではなく、外からみた第三者（一般学生）の視点からボランティアルームの改善点等を聞くために行っている。今年は昨年度に比べてメール登録者数が減少しており、また学生のボランティア参加人数も減ってしまった。

これ以上の減少を抑えるためにも、現在ボランティアルームを利用してくれている方々からボランティアに対する意識、コーディネート業務への意見を聞きだすことを中心に複数の質問を用意した。今回いただいた意見をきちんと受け止め、今後活かしていくことを目的としている。

2 活動内容

昨年度に引き続き、メール配信によるアンケート調査と今年度から新たな試みとして Twitter 登録者に向けたアンケートを実施した。これは、友人からよく SNS でボランティア情報を見ると言う意見を貰ったからである。それに加えて、アンケート期間中に直接ボランティアルームに来て下さった学生の方にもアンケートをお願いしたいということで紙媒体のものも準備し計 3 種類の方法でアンケートを行った。

アンケートの項目としては、昨年と比べてメール登録者、ボランティアへの参加率の減少が目立ったため、本学の学生がボランティアに何を求めているのか、ボランティアルームはどうあるべきかということに重点をおいてアンケートを行った。

内容は以下の通りである。

開催日：2018 年 12 月 17 日（月）～2019 年 1 月 28 日（月）

対象者：メール登録者 238 名

Twitter フォロワー者 619 名

期間中にボランティアルームに来てくれた学生 4 名

方法：Google フォームを活用し、アンケートの作成を行いメールと Twitter にてアンケートを配信した。また期間中にボランティアルームに来室してくれた学生に対しては紙媒体のものもお願いした。

アンケート内容：アンケートの項目は以下の 13 通りになる

- ①学年・学科
- ②ボランティアルームを通してのボランティア参加率
- ③ボランティアルームを通して何回ボランティアに参加したか
- ④ボランティア情報の入手方法

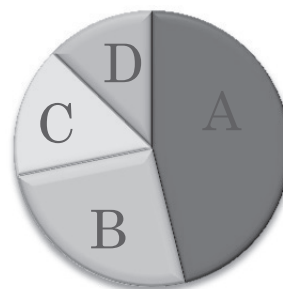
- ⑤参加したボランティアの感想
- ⑥独自でのボランティア参加率
- ⑦「月別ボランティア」の認知度
- ⑧食堂前等でボランティアの呼び込みをしていることの認知度
- ⑨今後参加したいと思うボランティア
- ⑩ボランティアとは
- ⑪ボランティアルームの印象
- ⑫ボランティアルームスタッフの対応
- ⑬ボランティアルームに対する意見

3 結果報告

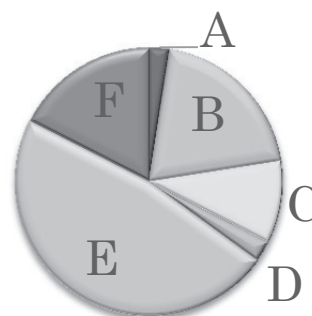
メール登録者 238 名と Twitter フォロワー者 619 名に対してアンケートを行った結果、得られた回答数は 38 件、またアンケート期間中にボランティアに参加してくれた一般学生 4 名の方に紙媒体のアンケートを渡した結果、1 部回答がありあわせて計 39 件の回答が得られた。昨年度のアンケートはメール登録者の方達のみでのアンケートで 26 名の回答であり、昨年度と比べると 13 件と回答者数だけでみると増えているが、今年度だけでみるとメール登録者・Twitter フォロワー者あわせて全体の約 4%になる。なお回答数についての反省は「4 反省・まとめ」で記載している。答えてくださった 39 件の意見はボランティアルームをよりよくするための貴重な意見になったので、順に結果を示していく。

①あなたの学年・学科を選んでください。

A : 1 年	18 人
B : 2 年	10 人
C : 3 年	6 人
D : 4 年	5 人



A : 神道	1 名
B : 国文	8 名
C : 国史	4 名
D : コミュニケーション	1 名
E : 教育	19 名
F : 現代日本社会	7 名

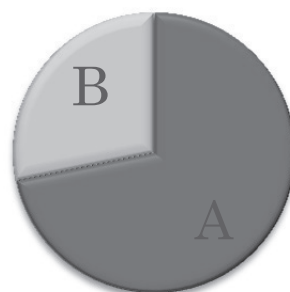


学年では「1年生」と「2年生」が多く、学科では「教育学部」が最も多く、次いで「現

代日本社会学部」という結果になった。学年に関してはメール登録者数 238 名の内訳としても 1 年生が 95 名、2 年生が 54 名と大半を占めているため、このような結果になることは当然といえよう。しかし 3 年生、4 年生の回答が少ない。その理由として 3、4 年はゼミ活動や就活、卒論等で空き時間をボランティア活動に充てようとする余裕がないのではと考える。そこで、4 月のガイダンスであったり、メールや SNS 等でボランティアに参加しようと思わせることが必要になってくる。学科で見るとメール登録者 238 名のうち教育学部が 128 名ともっと多いが、次いで文学部全体で 72 名と現代日本社会学部 38 名よりも多い。しかし今回のアンケート結果では文学部全体としては 14 名と全体の約 19% の回答しかない。この理由としてボランティアルームでは、依頼を受けたボランティアを子ども、地域、福祉の 3 つに分けている。このため教員を目指す教育学部が子ども、地域社会社会福祉を学ぶ現代日本社会学部が地域、福祉のボランティアに参加することが多く、その結果このような形でアンケートにも表れているのではないかと思う。しかし、文学部の中にも教員を目指す者も多くいる。また、ボランティアルームは 2 号館にあり、文学部の学科研究室は 3 号館にあるため、ボランティアルームの前を通る文学部生をよくみる。そこで、掲示物に文学部生が目を引きような工夫、ボランティアを紹介する際に文学部の学生の人達にも参加してもらえような工夫が今後の課題であると考えます。

② ボランティアルームを通してボランティアに参加したことがありますか？

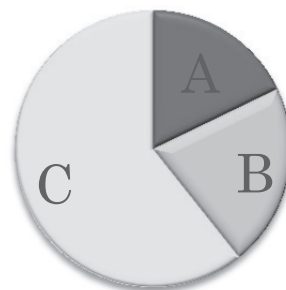
A : はい	28 名
B : いいえ	11 名



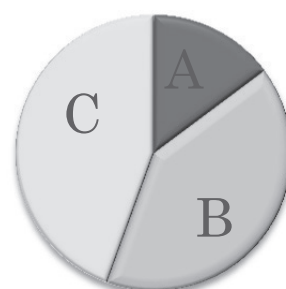
③ ②で「はい」と答えた方に質問です。何回ボランティアに参加しましたか？

またどの種類のボランティアに参加しましたか？

A : 5 回以上	5 名
B : 3, 4 回	6 名
C : 1, 2 回	17 名
D : 参加していない	0 名



A : 地域	4 名
B : 福祉	11 名
C : 子ども	12 名

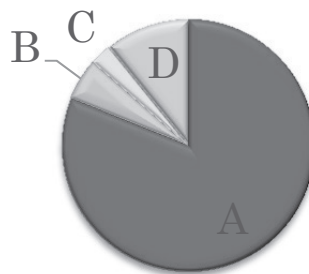


昨年度は「参加していない」という回答が一番多かったのに対し、今年度は「1, 2回」という回答が一番多く、「参加していない」と答えた人は0人という結果になった。この結果だけを見ると参加学生は増えたのではないかとと思われるが、このアンケートに回答してくれた方はボランティアに熱心であると考えられる学生のため、「1, 2回」が多いという結果は当然のことではないかと思う。参加した種類ではやはり「子ども」が一番多いという結果になった。この大学には教育学部を初め、教員志望の学生が数多くいる。また現代日本社会学部では地域・福祉に特化した学習もされているため、キャッチコピーなどに「教員志望必見！」や「福祉系の仕事につきたい人におススメ！」など各学部の学生を引き付けることが必要であるとする。

④ ②で「はい」と答えたかたに質問です。

ボランティア情報はどこで手に入れましたか？

A：メール配信	30名
B：掲示板	2名
C：SNS	1名
D：知人から	4名



例年通り、「メール配信」が一番多い結果となった。これは手元にある携帯電話やスマートフォンで、いつでも気軽にボランティア情報を確認できることが人気の理由と考えられる。この結果から携帯一つで気軽に情報を得られることから、「SNS」の活用も大事なのではないか考える。ボランティアルームは現在 Twitter と instagram の二つのアカウントをもっているが、更新状態は少ない。全部のボランティア情報を随時更新していくということは、なかなか難しいと考えるが、おススメのボランティア（月別ボランティア、企画ボランティア）は必ず上げるということは必要である。今後はメール配信は維持しつつ、SNSのさらなる活用が大事である。また「知り合い」からという回答も4名と多く、友達同士で「このボランティア一緒に行こうよ」と声を掛け合いボランティアに参加してくれていることも分かった。ボランティアルーム学生スタッフは現在38名いる。そんなスタッフが率先して友達やゼミの学生などに声をかけてボランティア参加の一步を踏み出させることが必要である。また「掲示板」については昨年と比較すると減少している。そこでボランティア情報が書かれた紙以外にもボランティアの写真であったり、昨年参加してくれた方がいるボランティアならその人達の感想など、少しでも目につきやすい工夫をする必要がある。

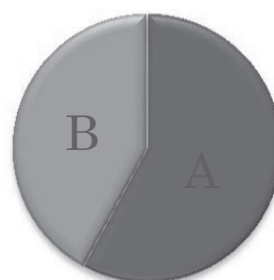
⑤参加したボランティアはどうでしたか？ ※複数回答

A：新しいことを学ぶことができた	0名
B：人とのつながりを体験できた	22名
C：自分に自信がついた	4名
D：個人で集中して活動できた	3名
E：同じボランティアにまた参加したい	12名
F：一緒に参加してくれる学生を増やしてほしい	3名
G：事前にボランティアについての説明がほしかった	5名
H：特に得られるものがなかった	0名
G：自由回答	0名

こちらはあらかじめ考えられる項目を8個用意しておき、そこから選んでもらえるように、また自由回答欄を付けた。結果は「人とのつながりを体験できた」という回答が最も多かった。ボランティアでは子どもやご高齢の方だけではなく、社会福祉協議会の職員の方達や、介護施設の職員さんと触れ合える機会が多いため、ボランティアに参加してくれた学生の人達にも繋がりを感じてもらえたのではないかと思う。また「同じボランティアにまた参加したい」と答えてくれた学生も12名と多く、参加したボランティアが楽しい、参加して良かったと思ってもらっていることが分かる。その反面「事前にボランティアについての説明がほしかった」という回答が5名もいることからボランティアルームスタッフが依頼されているボランティアについて把握し参加学生がきた際に誰が対応しても同じ情報が伝えられるようスタッフの技術の向上が課題である。参加しようとボランティアルームに来てくれる学生を不安にさせてはいけない。このことを肝に命じてスタッフとしての自覚をきちんと持つことが必要である。

⑥ボランティアルームを通さずにボランティアに参加したことはありますか？

A：参加した	22人
B：参加していない	16人



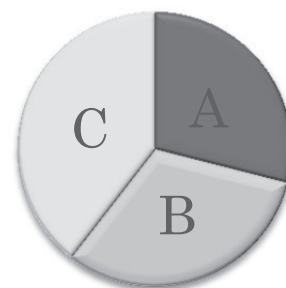
「参加した」という学生が22人いるという結果になった。このことから回答者以外にも合わせるとなると、独自に参加する学生はさらに多く存在しているのではないかと予測される。本学でがボランティアルームの他にも所属する学科やゼミ、大学から募集されるボランティア、他のボランティア系のサークルなどでボランティアを行うことができる。また地域課題解決を体験的に学べ、活動時間が成績にもつながるCLL（地（知）の拠

点整備事業) といった活動もあり、学生はボランティアルームを通さずとも、こういった活動が存在するためにボランティアに参加していると思われる。

ボランティアルームの利用者を増やすためには、ボランティアルームにしかできないことを見出す必要がある。ボランティアルームの特徴として学生自らがコーディネートする役目を担っている。また扱うボランティアの数、種類も多く学生が何を必要としているのか、また学生がどのようなボランティアに参加したいのかについて学生目線で考えることができる。その部分をきちんと行い、ボランティアルームにしかできないコーディネートを行っていききたい。

⑦毎月ルームスタッフが参加する「月別ボランティア」に参加したことがありますか？

A：参加した	11人
B：参加していない	12人
C：そのような活動があることを知らなかった	15人

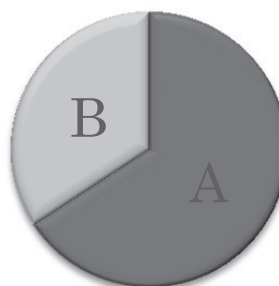


「月別ボランティア」とは、ボランティアに興味はあるが一人では参加しづらい、不安であると感じる学生を対象に、毎月一つオススメと決めたボランティアにルームスタッフが一緒に参加し、そういった不安を取り除き、学生の参加率向上を目的としたものである。しかし、昨年のアンケート結果から「そのような活動があることを知らない」という学生が多く、今年度も月別ボランティアに参加する学生が少ないという現状から今回もアンケートを通して、「月別ボランティア」について調べてみた。今回もまた昨年度と同じく「そのような活動があることを知らなかった」という回答が一番多く、次いで「参加していない」という学生が多いという結果になった。

結果から、昨年の反省が生かしきれず月別ボランティアの認知率はまだまだ低いということが分かった。学生の不安解消の為に企画した月別ボランティアが学生に認知されないと企画した意味がない。まずは月別ボランティアを一般学生に周知する活動が必要であると考え。そのためには例えばTwitterやinstagramなどのSNSでの告知を増やしていく、また、ルームには2号館前と6号館前に掲示板がある。その掲示板にて月別ボランティアの説明を記載した掲示物を貼って、学生の目に止まる工夫をしていきたい。

⑧食堂前などでボランティアルームスタッフがボランティアの呼び込みなどを行っていることを知っていますか？

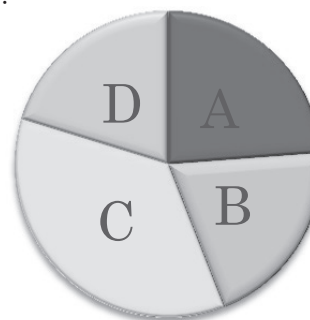
A：知っている	25人
B：知らない	13人



ボランティアルームではスタッフが企画したボランティア（サマースクールやちょこっと福祉体験）の募集期間にスタッフ自らが昼休みの時間に食堂前、6号館前で学生に向け呼び込みを行っている。その呼び込みについて、「知っている」と答えた学生が25人と呼び込みに関しては知っている人が多いということが分かった。しかし知っていると答えた学生が多くてもボランティアの参加率が上がらなければ意味がない。呼び込みの際は参加受付もその場で出来るという体制をとっているが、呼び込みの際に参加受付をしたということは少ない。これは、呼び込みの時間は昼休みに行っているが、昼食をとり次の授業の準備をしないといけないので昼休みの僅かな時間で立ち止まってボランティアについて耳を傾けてくれる人はなかなかいないからではないかと考える。しかし、食堂前には昼食を取りに来る学生が、また6号館前には主に教育学部や現代日本社会学部の学生が多いためボランティアの告知場所としては最適な時間帯である。ただ声を出して呼び込みをするだけでなく、チラシを配るなど様々な工夫を通して学生の皆さんに積極的に声かけをし、少しでもボランティアに興味をもってもらうことが必要である。

⑨あなたが今後参加したいと思うボランティアはどれですか？

A：地域	20名
B：福祉	17名
C：子ども	30名
D：災害	17名



やはり一番多いのは「子ども」系のボランティアという結果になった。ボランティアルームに足を運んでくれる学生からもよく「子どもボランティアでオススメはないですか？」と聞かれることが多くある。そこで月別ボランティアを子ども系のボランティアを中心に決めるということも今後考えなくてはならないと思う。また「地域」「福祉」のボランティアはやはり本大学には現代日本社会学部があり、そこでは福祉や地域のことについて学ぶ

学生が多いことからこのような結果になったのではないかと推測した。地域・福祉のボランティアは子どもに比べるとボランティア募集も少ないのでスタッフ自らが企画するということが今後検討したい。

⑩あなたはボランティアをどのように考えていますか？

A：社会貢献	6名
B：他者との交流	14名
C：自己PRの材料	2名
D：自身のスキルアップ	11名
E：ストレス発散	0名
F：技術や知識の提供	1名
G：町おこし	0名
H：奉仕活動	2名
I：普段やらないことができる	4名
J：暇つぶし	0名
K：自己満足	1名

こちらの質問もあらかじめ考えられる項目を11項目用意しておき、そこから選んでもらうという形にした。結果は「他者との交流」が最も多いという結果になった。これは問5の参加したボランティアはどうでしたか？という質問で「人とのつながりを体験できた」という意見が反映されていることが分かった。ボランティアというのは言うまでもなく様々な人達と触れ合える。ボランティアを通して学生の皆さんにも繋がりを感じてもらえたのではないかと思う。また「自身のスキルアップ」「社会貢献」という意見も多かったことから、ボランティアとはプラスの面として考えられていることが分かった。今後のコーディネート業務にはこのプラスの面をきちんと伝えていけるように工夫をしていきたい。

⑪ボランティアルームの印象はどうか。

前年度のアンケートで「ボランティアルームに入りにくい」という意見があったことから今年度はそこに重点をあてルームの印象はどうかと聞いてみた。

- 少し入りにくい雰囲気を感じる
- 気軽に入るには少し戸惑いを感じる
- サークルのようなものかなあと思い、入りづらいです。
- 学生にもう少し分かりやすい告知をしてほしい。
- 閉鎖的。暗い。怖い。
- 一度行ってみればいいがきっかけがないとルームに行くこともないし、入っていいか不安になる

全部で18件の回答を得られた。そんな中で一番多かったのが「入りにくい」といった印象である。この意見に関しては2年前ぐらいから課題となっている問題である。しかし改善されていないということがこのアンケート結果から読み取れる。ボランティア依頼をもらっても、様々な企画をしても「入りにくい」と思われてしまえば意味がない。

ボランティアルームは学生スタッフが運営しているから身近な存在であるということが1番の売りであるのに、それをうまく活かしきれていないように思う。初めて来る場所に入るには勇気がいる。これは誰もが同じことである。その勇気を少しでもなくすように私たちは学生の目線に立ってきちんと考え実行に移していかなければ、ボランティアルームから入りにくいというイメージはなくなる。新体制になった今、きちんとその部分を見つめなおす必要がある。

⑫ボランティアルームスタッフの対応はどうか？

全部で12件の回答が得られた。

- 気軽に話せる相手。
- スムーズな対応。
- とても丁寧に対応してくれた。
- 活発な方が多く、ボランティア先でも参加者を見放さずに対応してくれた。
- 優しい。
- 丁寧だが、ボランティアについて詳しく説明してほしい。初めてボランティアに参加する時は不安が大きい。

回答の多くはとても気軽に話せる相手であったり、丁寧な対応とスタッフの対応に関してはいい結果が得られた。しかし、「もっとボランティアについて詳しく説明してほしい」という意見も見られた。これは、スタッフの対応力に差が出ているのではないかと考える。ルームでは1年生から4年生まで在籍しており、それぞれが自分の時間割りをもとに空いている時間にルームで仕事をしており、1年だけが固まる時間もあれば、全学年が均等に入っている時間もある。すると仕事を多く経験している上級生は一般学生への対応力は慣れたものになるが、あまり経験したことない人が集まると、対応力は一気に低下する。また全員がきちんと現在依頼が来ているボランティアについて把握していなければ、説明もできない。学生スタッフは、ボランティア情報に関してはルームに来るたびに今どんなボランティアがあるかを確認することが必要である。また、対応力の均等化に関してだが、一度ミーティングの時間などを利用して全体で仕事の確認、対応の仕方を学ぶ時間を設ける必要があるのではと考える。平成21年度、22年度の報告書を見ると、新入生が入ってきたときに、センタースタッフお仕事講座を開いていたと書いてあった。今年はたくさんの新入生が入ってきた。ボランティアルームスタッフの人数も40人近くになってきた今、再度全スタッフが初心に帰り、仕事の方法を見直すべきであると考えられる。

⑬ボランティアルームに対する意見や要望があればお願いします。

全部で7件の回答が得られた。

●ボランティアルーム主催のものは一般学生にもきちんと当日の流れを説明してほしい。

ルームスタッフが主催しているのでボランティアが初めての方でも安心というキャッチコピーのもとで企画を紹介しているのにこの意見がでてしまうということは元も子もない。全スタッフが企画について理解を深めいつ誰が対応しても同じ情報を伝えられるように、情報を共有していかなければならない。またスタッフ企画のものは事前に説明会を開いても良いのではないかと思う。そうすることで、当日初めましての人ばかりだから緊張するといったことはなくなるのではないかと思う。

●Twitterからのボランティア情報を増やしてほしい。

今年度からSNSをもっと活用していこうとinstagramも開設し、SNSでのボランティア情報の発信に力を入れた。しかし現状としてはボランティア情報を全て発信できている訳ではなく、企画であったり月別ボランティアであったりと情報は少ない。ほとんどの情報はメールということになる。しかし、メールもあまり見ないという学生が多いということから新年度からLINEとメールの2つでボランティア情報を発信していこうということになっており、LINEを導入することによって参加率がどのようになるのかは期待するところである。

●北勢、名古屋方面のボランティア情報も増やしてほしい。

●特別支援教育系のボランティアを増やしてほしい。

この意見に関しては昨年度もあつた意見であるが、やはりこういった地域のボランティアが無いわけではないが、やはり伊勢や松阪などの地域のボランティアが多く、大学に通っている学生からすると、ボランティアに行くのが大変である。今年度から四日市市社会福祉協議会さんにも社協訪問を行おうと計画しており、これにより、北勢、名古屋方面のボランティアがどれだけ増えるか期待するところである。また、こちらの対策としてはボランティアフェスティバルなどのボランティア団体が数多く居合わせる場にルームスタッフが参加し、ボランティアルームの認知度を上げて、依頼を受ける件数を増やしていく必要があると考える。

4 反省・まとめ

昨年度のアンケート結果と比較していると何も変わっていない部分が見られた。(月別ボランティアの認知度、ルームに入りにくいなど)昨年度の反省をきちんとできていないという結果が今回のアンケートを通して分かった。アンケートの結果をスタッフで確認し、どのように対策していくのかということを中心に考え実行に移さなければ、アンケート

をしている意味がない。アンケートをする意味を今一度見つめ直す必要がある。今回は昨年度の反省からメール登録者数だけではなく、Twitterでもアンケートができるようにし、また紙媒体のものも用意した。その結果昨年度よりも13件アップしているが、メール登録以外の方法でも行ったのだから、増えるのは当然のことである。今年度だけでみるとやはりアンケート回答数は少ない。この方法は各自が自由に参加できるため、アンケートに答えてくれた学生はボランティアに対して熱心な学生でありその意見が反映されるという利点がある。しかしこれだけアンケートの回答が少なければ、回答に偏りができ正確な調査が出来ない。これを改善するためには、以前のように回答数が確実に得られるアンケート配布・回収による方法も検討していかなければいけない。

また昨年度からボランティア件数もボランティア参加学生も減少している。ボランティア参加学生の数が減るということはボランティアに参加する人達がいなくて、だから皇學館大学ボランティアルームに募集を依頼しても意味がないと各ボランティア依頼者に思われても仕方のないことである。ボランティアルームはボランティアを求める人達がボランティア依頼をしてくださるからこそ成り立っているのもであって、このままでは、ボランティアルームの存続も危ぶまれる。そうならないためにもまずは各団体と信頼関係をきちんと築くため、スタッフ自らがボランティアに沢山参加していきたい。私達スタッフがボランティアに参加することで沢山の経験を積み、今後のコーディネート業務にも活かせるのではないかと思う。先輩達が繋げてきてくれたボランティアルームの伝統、各団体との繋がりを。それを絶やさないためにも今が踏ん張りどころである。このアンケート結果を身心に受けとめ、スタッフ一同頑張っていきたいと思う。

【文責：文学部国史学科3年 松下翠里】

4. 資 料

平成 30 年度 年間スケジュール

日 時	場 所	活動内容
4 月 26 日(木)	図書館	第 1 回全体ミーティング
5 月 17 日(木)	511 教室	第 2 回全体ミーティング
6 月 21 日(木)	511 教室	第 3 回全体ミーティング
7 月 19 日(木)	511 教室	第 4 回全体ミーティング
7 月 18 日(水) 19 日(木) 20 日(金)	食堂前 6 号館前	平成 30 年 7 月豪雨救援募金
8 月 7 日(火)	皇學館大学 721 教室	ちょこっと福祉体験
8 月 20 日(金) 17 日(金)	松阪市社会福祉協議会	サマースクール
8 月 23 日(木)	図書館	第 5 回全体ミーティング
8 月 28 日(火)	愛知淑徳大学星が丘キャンパス	他大学視察 (愛知淑徳大学)
9 月 27 日(木)	511 教室	第 6 回全体ミーティング
10 月 25 日(木)	511 教室	第 7 回全体ミーティング
10 月 27 日(土) 28 日(日)	皇學館大学芝生広場	倉陵祭
11 月 10 日(土)	介護付有料老人ホームくらたやま	老人ホームで Let' s 文化祭
11 月 18 日(日)	伊勢市ハートプラザみその	伊勢市ボランティアフェスティバル
11 月 29 日(木)	511 教室	第 8 回全体ミーティング
12 月 20 日(木)	511 教室	第 9 回全体ミーティング
1 月 24 日(木)	511 教室	第 10 回全体ミーティング
2 月 14 日(木)	皇學館大学 721 教室	平成 30 年度年間報告会
2 月 19 日(火)	皇學館大学 711 教室	CCC とコラボ in 伊勢
2 月 21 日(木)	722 教室	第 11 回全体ミーティング
3 月 9 日(土)	711 教室	第 12 回全体ミーティング
3 月 26 日(火)	711 教室	第 13 回全体ミーティング

平成30年度 ボランティア募集一覧
通常ボランティア

No.	日時	ボランティア名	場所	住所	内容	参加人数
1	H29年度4月23日(日) am8:00~pm16:00	第40回松阪こどもまつり	中部大公園芝生広場	松阪市	運営スタッフ業務のお手伝い	12人
2	H29年度5月12(金) am13:00~16:00 13(土)10:00~15:30	第20回三重県障がい者スポーツ大会	三重県身体障害者 総合福祉センターグラウンド	津市	フライングディスク競技の補助	
3	H29年度5月20日(土) am10:00~pm15:00	第10回城山れんげの里	城山れんげの里	津市	軽食販売・バザー等のスタッフ	5人
4	H29年度5月3日(水) am9:30~	横浜ゴム第24回ふれあいまつり	横浜ゴム三重工場構内	伊勢市	着ぐるみを着て子ども達との交流	6人
5	H29年度5月21日(日) am9:30~pm13:30	第21回ふれあい広場	二見老人福祉センター周辺	伊勢市	ふれあいコーナー(バルーンアート・義援金活動・着ぐるみ)	6人
6	H29年度5月21日(日) am13:00~pm15:30	プログラミング道場 CoderDojo	伊勢市福祉健康センター	伊勢市	運営の盛り上げ(子ども話を聞いたり作品作りを見守る)	
7	H29年度5月21日(日) am11:00~pm16:00	H29年度第6回東日本大震災復興支援 チャリティイベント	多気町民文化会館	多気郡	イベントでの募金受付・募金箱管理	2人
8	H29年度8月6日(日) am10:00~pm16:00	M祭！2017キッズ・アート・フェスティバル	三重県総合文化センター	津市	イベント運営・設置手伝い	4人
9	H29年度5月3日(水) am13:30~pm15:00	能楽のプログラム配り	外宮せんく館前	伊勢市	能楽同好会のプログラム配り	
10	H29年度5月12日(金) am10:00~pm11:30	託児ボランティア	伊勢市中央児童センター	伊勢市	子どもの託児	4人
11	H29年度5月27日(土) am13:00~16:00	miniボランティア体験	皇學館大学711教室	伊勢市	手話講座・豆つかみなど	27人 (1人欠席)
12	H29年度6月9日(金)13:00~16:00 10日(土)8:30~16:00	2017三重県ふれあいスポレク祭	四日市ドーム	四日市市	レクリエーションゲームの補助等	
13	H29年度5月28日(日) 11:00~14:00	ナンプフェスタボランティア	南館自動車学校	伊勢市	着ぐるみを着てイベントの補助・写真撮影係	5人
14	H29年度5月28日(日) pm13:30~	れいんぼうカフェ	生涯学習センター	伊勢市	市長と結婚や出産、子育て、地域の仕事や暮らしについて話し合う	
15	毎週火曜金曜 pm19:00~pm21:30	バレーボール(随時に変更)		松阪市	手話での挨拶や自己紹介、昼食づくり、コミュニケーションボードづくり、 手話ダンスを覚えてみんなで踊る	随時
16	H29年度7月24,27,28,31 8月2,3,7,9,10,17,18,21,22,23,25,29	松阪市児童発達支援地域スクール	日にちによって異なる	日にちにより変更	子どもと一緒にレクリエーションに参加・子ども達の補助	1人
17	H29年度7月20日(木)~8月5日(土)	生きるを学ぶボランティア	波瀬湖り館		体験学習のお手伝い(あまごつかみ・川遊びの補助)	8人
18	H29年度8月4日(金) am10:00~pm15:00	みんなで手話ダンス	松阪市福祉会館	松阪市	手話での挨拶や自己紹介、昼食づくり、コミュニケーションボードづくり、 手話ダンスを覚えてみんなで踊る	
19	H29年9月10日(日) am9:00~pm15:30(am08:00集合)	ふれあい体育祭	ハートフルみくもスポーツ文化センター	松阪市	障がいのある方と家族や機関、他のボランティア関係者が ふれあい体育祭を通して交流・親睦を深める	5人
20	H29年8月28日(月) pm13:00~pm16:00	ボランティアっていいよね！みんなで語ろう！	松阪市福祉会館	松阪市	先輩ボランティアや同世代の仲間達とお茶を飲みながら意見交換し 氏猫まつりでのボランティア啓発ブース出店を皆で計画しよう！	
21	H29年7月8日(土) am10:00~pm15:30(集合am8:00集合)	第21回三重県障がい者スポーツ大会	安濃中央公園(メインアリーナ)		バレーボールの競技進行に関する補助など	
22	H29年7月22日(土) pm17:00~pm19:30 (集合pm16:00 解散pm20:30)	夕涼み会ボランティアルーム	宮の里ミタスメモリアルホーム	度会郡	屋外での食事・花火・盆踊りなどの運営、介助、準備、片付け	
23	H29年7月2日(日) am8:00~am9:00	勢田川七太そうじ	伊勢地区医師会東邦ガソリン駐車場 →色公園		堤防及び管理道路の草刈り、ゴミ拾い等	2人
24	H29年8月26日(日) am9:00~pm20:00(時間は応相談)	久居交通夏祭り	久居交通本社前	津市	祭りの準備、出店の売り子、ステージイベント出演、 高齢者施設利用者様とのコミュニケーション	6人
25	随時	三重大学学生ボランティア			大紀町クリーン作戦	随時
26	H29年8月5日(土) am13:00~pm16:30	CoderDojo 伊勢	伊勢市福祉健康センター	伊勢市	子ども達の作品づくりを一緒に応援する	1人
27	H29年8月11日(金)16日(水)22日(火) am9:00~pm16:00	サマーボランティアスクール	11日徳和市民センター 16、22日松阪福祉協議会	日にちによって異なる	様々なゲームブースの補助 子ども達の作業づくりのサポート	35人
28	H29年6月24日(土) am8:00~(2時間程度)	大紀町クリーン作戦	大紀町 奥川河川敷		奥川岸の清掃	3人
29	H29年7月22日(土) am8:00~11:00	第15回回いすde伊勢神宮参拝プロジェクト	伊勢神宮内宮	鳥羽市	伊勢神宮参拝での車いす持ち上げ、参加者とのお話	
30	H29年8月26日(土) pm4:00~8:00	明和町社協ふれあいボランティア	明和の里	多気郡明和町	緑日のお手伝い(ヨーヨー、輪投げ、ゲームの補助)	2人
31	H29年7月29(土)・30(日)、 8月5(土)・26(土)pm4:00~	夏休みボランティア	そんぼの家松阪・鯉屋旅館周辺・ 向野園・こいしるの里	日によって変更	祭りでの出展の手伝い、利用者の介助	4人
32	H29年8月22、23、24 am9:00~pm4:00	まいふん祭り2017	三重県埋蔵文化財センター	松阪市	勾玉・石包丁作り・火起こし体験・文化財すごろくなど主に小学生来場者の対応	
33	H29年9月10日(日) am9:00~pm3:30(集合am8:30)	ふれあい体育祭ボランティア	ハートフルみくもスポーツ文化センター	松阪市	運動会運営のサポート	7人
34	H29年7月30日(日)am10:00~pm3:00 (集合am9:00)	明日へつなぐ...ボランティア	伊勢市福祉健康センター	伊勢市	視覚障がい者の方のガイドブック調理ボランティア、会場設置の手伝い	
35	H29年8月6、30、10月4、15、 12月1、9	飲酒運転0を目指すリレーイベント	日によって変更	日によって変更	飲酒運転の啓発ボランティア	
36	H29年8月2日(水) pm1:00~3日9:30	わくわく体験活動キャンプ	五桂池ふるさと村	多気郡	バターゴルフ・BBQ・飯ごう炊飯・レクリエーションなど 子ども達と1対1で一緒に活動する	
37	H29年7月27、8月9、8月26日 pm15:00~pm8:00ごろまで	サーチャレンジボランティア①	日にちにより変更	日にちによって変更	夏祭りを通して高齢者と触れ合う	3人
38	H29年8月1日(火)am9:00~pm12:00頃 (集合am8:30)	外宮さんちっこ博士グランプリ	いせ市民活動センター		子ども達と一緒に外宮さんを歩いてクイズ大会のサポート	
39	H29年8月8日(火) pm1:00~pm16:15	ちよこつと福祉体験	皇學館大学	伊勢市	福祉体験をする子どもたちのサポート	18人
40	H29年7月24,28、31、8月7、14、21、25 am9:30~pm15:30	サマーチャレンジボランティア②	四日市市体育館	諏訪町2-2	障がいのある子ども達と工作や料理作り	
41	H29年7月28、8月4、18、25、 9月1、am9:30~pm12:30	サマーチャレンジボランティア③	サロンよってこ家	富田3丁目14-14	おもちゃや絵本を使って子ども達と触れ合う	
42	H29年7月26日、8月25日 13:30~16:00	サウンドテーブルテニス	ヘルスプラザ	塩浜町1-11	サウンドテーブルテニスのサポート	3人
42②	H29年8月20日、9月3日 13:00~16:00	ポッチャ	四日市市障がい者体育センター	西日野町4070-1	ポッチャのサポート	
43	H29年9月24日(日) am10:00~pm15:00	交通安全フェスタ	イオンタウン伊勢ラパーク	伊勢市	障がいのある方のサポート	2人
45	H29年8月6日(日) 18:00~20:00 集合17時	多気天啓苑夏祭り盆踊りボランティア	多気天啓苑	コウボシ580番地	老人ホームの入所者と一緒に踊る。	

46	H29年7月21日(金)～8月31日(木)の都合のいい日	多気児童館ボランティア	多気児童館 放課後児童クラブ	多気町	子ども達と一緒に遊んだり準備のお手伝い	2人
47	H29年10月29日(日) am9:00～17:00	35周年福祉の社まつりボランティア	宮の里タスメモリアルホーム	度会郡玉城町	利用者とのお付き合い、食事の介助・模擬店などの手伝い、準備片付けなど	
48	H29年8月7日	スクールパートナー	7日東浦町勤労福祉館	愛知県知多郡	子ども達に算数・数学の勉強のサポート	
48	H29年8月8日(火)～9日(水)		8～9日東浦町文化センター	愛知県知多郡		
48	H29年8月23日(水)～26日(土)		23～26日東浦町立片藪小学校	愛知県知多郡		
49	H29年8月12日(土)、13日(日)、14日(月)	鳥羽ボランティア	近鉄鳥羽駅周辺	三重県		
50	H29年8月1日(火)、8日(火)、20日(日)、29日(火)9:30～15:30	夏はついでいサークル	玉城町福祉会館	玉城町	子ども達とお菓子作り、川遊び	2人
51	H29年8月5日(土) pm6:00～pm8:40 (集合pm4:30)	納涼祭	三重済美学院	伊勢市	利用者の方のサポート	
52	H29年8月22日(火) pm6:00～pm8:00	みつばちと私たちの未来	伊勢市ティープラザ	伊勢市	会場の受付・片付け	
53	①H29年7月22日(土) am10:00～(1時間程度) ②7月30日(日)am10:00～(1時間程度)	九州北部豪雨災害義援金募金募集活動	①おかげ横丁 ②福祉健康センター		募金活動	1人
54	H29年7月29日(土)	大井手夏まつり	大井手公園	四日市市	夏祭りの屋台・ゲーム運営等補助・かき氷、やきそば、フランクフルトの補助・輪投げ、スーパーボールすくい等の運営補助	
55	H29年8月29日(火) am10:00～pm15:00	きらきらくらぶ2017	多気社会福祉協議会 天啓の里	多気郡	身体障害、療育、精神保健福祉手帳を所持している。小学生以上の児童と一緒に遊ぶ。	2人
56	H	聖母の家まつり				
57	H29年8月24日(木) am8:30～pm4:00	ふれあいデイキャンプ	鈴鹿青少年の森	鈴鹿市	BBQやスイカ割り、ミニゲームなどをして知的障害児と一緒にデイキャンプを行う。	
58	H29年11月26日(日) am9:00～pm16:00	伊勢市ボランティアフェスティバル	ハートプラザみその	伊勢市	当日イベント運営及び片付け	14人
59	H29年8月5日(土) pm4:00～pm8:00	しらさぎ園夏祭り	地子町公園	鈴鹿市	施設利用者の引率・ゲームブースの手伝い	
60	H29年8月6日(日)	着ぐるみボランティア	ハートプラザみその	御園町	着ぐるみに入り、赤い羽根共同募金のPRを一緒に行う。(募金協力者にティッシュ配布など)	
61	H29年8月21日(月)22日(火)	ハトの巣・チャレンジサマー	皇學館大学 7号館5階	伊勢市	現代・昔の遊び、夏祭り、無料カフェ、学習支援	
62	H29年9月9日(土)pm4:00～pm8:00	ふれあい祭り ボランティア	嬉野カトリックの家	松阪市	祭のサポート	
63	H29年8月17日(木)25日(金) am8:30～pm4:30	就労支援B型くすのきボランティア	就労支援B型くすのき	多気町	軽作業及び見守り等	
64	H29年11月2日(木)pm1:00～pm4:00、3日(金)am10:00～pm3:30(集合am8:00)	第20回三重県障がい者スポーツ大会 陸上競技	三重交通Gスポーツの杜伊勢	伊勢市	2日前日準備、3日大会当日 陸上競技の進行に関する補助等	
65	H29年10月21日(土) am11:30～pm4:00	第18回きずな・つつじの里 秋祭り	特別擁護老人ホームきずな・介護老人保健施設つつじの里	津市	準備、模擬店の補助、後片付け等	1人
66	H29年9月20日(水)、29日(金) am10:00～am11:30(集合am9:45)	託児ボランティア	伊勢市中央児童センター	伊勢市	母親向け講座(ママネイルケア講座)の参加者お子様(生後6ヵ月～未就園児)の託児	
67	H29年10月7日(土) pm15:00～16:00	伊勢まつりであつぱちゃん音頭を踊ろう!!	第三銀行から伊勢市駅		かつぱちゃん音頭を踊りパレード(伊勢まつり)に参加	
68	H29年10月7日(土) am8:15～12:00	さくら保育園運動会支援ボランティア	さくら保育園	松阪市	運動会の支援	1人
69	H29年11月25日(土)午前の部 受付(9:00) 9:30～12:30 午後の部 (13:00)13:30～16:30	第20回三重県障がい者スポーツ大会 ボウリング	津グランドボウル	津市	ボウリング競技(知的障がいのある方)に参加される選手の支援・競技補助等	
70	H29年10月9日(月)祝 10:00～15:00	三重県障がい者スポーツフェスティバル2017	三重県身体障害者総合福祉センター	津市	パラリンピック出場選手等によるパネルディスカッション・障がい者スポーツ体験・陸上競技用車いす試乗等	
71	H29年10月22日(日) 8:30～16:00	第18回河崎商人市ボランティア	伊勢河崎商人館と河崎本通り及び河崎川の駅周辺		スタンプラリーの設営と運営 河崎商人市の案内、伊勢河崎商人館の受付など	2人
72	H29年10月8日(日) 9:30～16:00	奈佐の浜海岸清掃ボランティア	鳥羽市佐田浜定期船乗り場		奈佐の浜海岸清掃、意見交流会	
73	H29年10月22日(日) 8:00～9:00	宮川流域いっせいクリーン作戦	宮リバー度会パーク下河川敷	伊勢市	宮リバー度会パーク下河川敷一帯の清掃	2人
74	H29年11月26日(日) 9:20～17:00	日産労運クリスマスチャリティー	クラギ文化ホール(松阪市民文化会館)	松阪市	参加する介助を必要とする方の誘導・移動支援・排泄支援補助等の準備など	
75	H29年11月3日(金) 8:45～15:30	川越2017 ふれあい祭り	川越町総合センター	三重郡川越町	様々な企画ブースの手伝い・運営スタッフとしての支援	
76	H29年10月7日(土) 10:00～15:00	ふれあい広場	しらさぎ園	鈴鹿市	施設利用者さんの引率ボランティア	
77	H29年10月29日(日) 8:30～15:00	ふくふく祭り	デイサービスきらめき	鈴鹿市	老人、障がい者、児童施設が中心となって行うイベント運営の補助	
78	H29年11月3日(金) 7:30～11:00	第16回 車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト	伊勢神宮内宮		伊勢神宮内宮参道での車いす介助、正宮前階段での車いす持ち上げなど	
79	H29年11月5日(日) 13:00～17:00	くらたやま老人ホームで文化祭	有料老人ホームくらたやま	伊勢市	施設利用者の方と一緒にフォトフレームの製作や部活発表見学を通じての交流	8人
80	H29年10月18日(水)・10月27日(金) 10:30～11:30	託児ボランティア	伊勢市中央児童センター	伊勢市	生後6ヵ月～未就園児の託児	
81	H29年10月22日(日) am10:00～pm0:00	二見ハロウィンまつり	伊勢市二見町茶屋地区(二見生涯学習センター)	伊勢市	子ども達が仮装して、高齢者の家を訪問し、お菓子を貰って廻る活動の補助	3人
82	H29年11月25日(土)午前の部 受付(9:00) 9:30～12:30 午後の部 (13:00)13:30～16:30	第20回三重県障がい者スポーツ大会・ボウリング	津グランドボウル	津市	ボウリングの進行に関する補助等	
83	H29年11月12日(日)10:00～ 雨天の場合19日(日)	第2回中島学区ふれあいフェスティバル	宮川堤公園	伊勢市	お祭りの補助	
84		台風21号被害援助				
85	H29年12月17日(日)	松阪市福祉フェスティバル	クラギ文化会館	松阪市	ミニ福祉体験コーナー、缶バッチづくりコーナー、値域カルタ体験コーナー、パルーンコーナー、屋台村コーナー等の補助スタッフ	11人
86	H30年1月27日(土)・2月10日(土) 24日(土)3月10日(土)・24日(土)	うれしのこどもクラブ	嬉野社会福祉センター	松阪市	嬉野地区の小学校に通う1年生～6年生の子供たちと一緒に遊んだり宿題を見たりします	4人
87	H30年1月13日(土) 8:30～12:30	さくら保育園 生活発表会	松阪クラギ文化ホール	松阪市	園児の衣装付けの手伝い、会場整備の手伝い	2人
88	H30年3月4日(日) 9:00～15:00	スポーツレクリエーション	三重県営松阪野球場	松阪市	ゆるキャラ対応、各物品販売のフォロー	3人

89	H29年12月16日(土) 13:00~20:00	こいしらの里 クリスマス会	こいしらの里	松阪市	クリスマス会の装飾、知的障がい者の利用者と共に行事を盛り上げる	
90	H30年1月13日(土) 10:00~16:00(集合時間 8:30)	第20回三重県障がい者スポーツ大会・卓球	三重県身体障害者 総合福祉センター体育館	津市	卓球競技の進行に関する補助等	
91		白浜海岸清掃ボランティア				
92	H30年1月28日(日) 10:00~14:00	御園ボランティアまつり	ハートプラザみその	伊勢市	着ぐるみを着て活動・見守り	2人
93	H30年3月4日(日) 9:00~15:00	スポーツレクリエーションフェスティバル	三重県営松阪野球場	松阪市	準備・ゆるきゃらの対応・各物品販売のフォロー・後片付け	
94	H30年1月7日(日) 12:30~16:30	ライブスペース伊っ勢の!	伊勢市生涯学習センターいせとびあ	伊勢市	イベント運営・設営手伝い	2人
96	H30年2月8・9日(木・金) 10:00~11:30	託児ボランティア	中央児童センター	福祉健康センター3階	どんぐり帽子つくりの補助	
97	H30年1月21日(日) 13:00~15:00	ふれあいレクリエーション	明和町中央公民館	多気郡明和町	小さいお子さんからお年寄り、車いすをご利用の方まで気軽に楽しめるレクリエーション(サイコロゲーム、輪投げ、ストックアウトの他、目の不自由な人が楽しめるスポーツ等々)や、イベントの補助。	4人
98	H30年2月3日(土) 13:00~15:30	手話サロン	徳和地区市民センター	松阪市	聴覚障がい者との交流・バールンづくり	
99	H30年3月10日(土) 10:00~14:00	ボランティアパワーアップ研修	飯南産業文化センター	松阪市	ボランティア研修会参加、防災食づくり、昼食を食べながらの交流	
100	H30年3月24日(土) 7:30~12:30	車いすde伊勢神宮参拝プロジェクトin外宮	いせシティプラザ	伊勢市	外宮参道での車いすの介助・参拝者との交流	2人
101	H30年1月28日(日) 13:00~16:00	CoderDojo プログラミング教室	伊勢市福祉健康センター	伊勢市	活動風景の写真撮影や受付作業など 小中学生とパソコンを用いたゲーム作成	
102		東海北陸肢体不自由児者ボランティア				
103	H30年4月~H31年3月31日	三重県警大学生ボランティア	各活動によって変動		少年の立ち直り支援活動・非行防止・健全育成活動に関する諸活動をスポーツや農業・調理などの幅広い活動より行います!	
104	H30年2月25日(日)・3月11日(日)・ 3月17日(土) 8:50~16:00	H29年度松阪市児童発達支援 地域スクール事業	嬉野社会福祉センター・徳和地区 市民センター・ハートフルみくも			
105	H30年3月4日(日) 9:00~17:00	伊勢市国際交流フェスティバル	伊勢市ハートプラザみその	伊勢市	「伊勢市国際交流フェスティバル」当日の運営業務	
106	H30年2月25日(日) 9:00~17:00	人形劇オタマジャクシボランティア	尾崎琴堂記念館	伊勢市	劇の補助	
107	H30年4月15日(日) 13:30~18:30	志摩ロードパーティーハーフマラソン	志摩スペイン村周辺	志摩市	コースでの給水・応援 選手受付	
108		志摩ロードパーティーバリアフリーボランティア				
109	H30年3月3日(土) 9:00~15:30	福祉健康センターフェスティバル	伊勢市福祉健康センター	伊勢市	着ぐるみ・喫茶コーナー・受付・会場案内・ステージ設置など	
110	H30年3月27日(火) 13:00~15:30	平成30年度身体障害者デイスサービス交流会	伊勢市福祉健康センター	伊勢市	交流会の参加者と一緒に楽しむ・見守り・介助	4人

平成30年度 ボランティア募集一覧

随時ボランティア					
No.	日時	ボランティア名	場所	住所	内容
No.1	平日 9:00～14:00	メンタルフレンドin伊勢	伊勢市教育支援センター	伊勢市	児童生徒の自立のための支援活動
No.2	平成29年4月～平成30年3月	メンタルフレンドin津	ほほえみ教室津市乙部2110番地 ふれあい教室	津市	津市在住の不登校または不登校傾向にある児童生徒に対する支援や相談
No.3	毎月数回程度 9:30～13:00	メンタルフレンドin四日市	四日市教育委員会教育支援課 適応指導教室	四日市市	ふれあい教室にて児童生徒たちの支援活動 生徒宅訪問(話あいて、遊び相手)
No.4	月1回 土曜日10:00～	トピアだよりのお手伝い	伊勢市黒瀬町562-12	伊勢市	年に四回ほど発行されているトピアだよりの記事作成のお手伝い。 イベントに参加して写真を撮ったり、参加者に取材をおこなったりする。
No.5		伊勢赤十字病院ボランティア	伊勢市赤十字病院	伊勢市	患者さんの案内 ボランティア通信の作成 時間は9時～15時(時間や曜日は相談可)
No.6	月～金9:00～11:30 13:00～15:30	遊びの広場「だっこ」	あおぞら保育園	鳥羽市	子育て支援センターや出張広場サークルなどの広場で 子どもと一緒に遊んだり、見守ったりする。
No.7	平成29年3月～平成29年4月 (月2回)/年24回 基本として 第1・3土曜日/午前10時00分～正午	Jr. ベースボール教室指導員補助ボランティア	4月～11月志摩市浜島ふるさと公園 多目的グラウンド (三重県志摩市浜島町山) 12月～3月と雨天時 志摩市浜島B&G海洋 センターアリーナ (三重県志摩市浜島町浜島3464-4)		幼児(5歳)～小学2年生の子どもを対象に野球のルール・マナー・ 投げる・打つ・捕る等の基礎の指導
No.8	月曜～金曜 15時～18時 長期休み: 9時～18時 週1回1時間から。 毎日来てもらって大丈夫	松阪学童保育ボランティア	松阪市小黒田町426-1 第二青木ビル1F	松阪市	・集団遊びの見守り・宿題サポート・授業(算数・国語・英会話) サポート・イベント等のサポート
No.9	月曜～金曜 10時～18時まで	放課後デイサービス	代々木高等学校	志摩市	発達障がいや学習障害をもった小学生～高校生の学習指導や遊び相手
No.10	毎朝8時～8時20分頃	度会特別支援学校スクールサポーター	いせトピア バス停	伊勢市	スクールバス乗り込み時の補助
No.11	1日の1～2名 10:00～15:30	身体障がい者デイサービスin伊勢	伊勢市重度身体障害者 デイサービスセンターくら		重度の身体障害者さんの生活介護 レクリエーションや感覚訓練活動、 音楽療法的活動等によるマッサージ、外出、調理実習等の援助
No.12	月曜～金曜 15:00～18:00 (長期休みは8時～18時)	なないろ学童クラブ	なないろ学童クラブ	伊勢市	学童の指導員の補助
No.13	長期休暇中	放課後デイサービスボランティア	〒516-2404 放課後等デイサービス Seed		
No.14	毎日	くらたやまボランティア	介護付有料老人ホームくらたやま		
No.15	登録後に決定	学生ボランティアin志摩	志摩市教育支援センター		
No.16	毎週火・金曜日 19:30～21:30	バレーボールスクール	倉田山中(金曜日)と五十鈴中(火曜日)	多気郡大台町	発達障がいや学習障がいのある子ども達の付き添い、遊び相手のお手伝い
No.17	2017年4月～2018年3月まで	スクールパートナーボランティア	日によって異なります	伊勢市	小規模な(定員26名)のアットホームな施設で、 掃除・洗濯などお手伝いする児童、生徒の諸活動

平成 30 年度 ボランティアルームスタッフ一覧

No.	所 属	学 年	名 前
1	文学部国文学科	4 年	山口 遼
2			上野 寛登
3	文学部国史学科		伊藤 駿介
4	文学部コミュニケーション学科		川口 真奈
5	文学部神道学科		田垣内 利晃
6	文学部国文学科	3 年	小林 真亜利
7			森 菜々子
8	文学部国史学科		松下 翠里
9	文学部コミュニケーション学科		水谷 祐哉
10			服部 悠馬
11			三苫 祐揮
12	教育学部教育学科		奥山 智司
13			岡崎 なみき
14	現代日本社会学部現代日本社会学科		杉木 真子
15			中根 くるみ
16			大田 芙侑
17	文学部国史学科		奥 梨沙
18	文学部コミュニケーション学科		高田 玲志
19			村林 寛隆
20	文学部国史学科	2 年	渡辺 楓
21	現代日本社会学部現代日本社会学科		山川 廣太郎
22			才戸 俊祐
23			中西 正樹
24			伊藤 寧音
25			丹後 程翔
26			勝田 萌
27	文学部国史学科	1 年	下野 実紀
28	文学部コミュニケーション学科		西出 美郷
29			吉田 綾奈
30			中子 恵里花
31			森田 麻友

32	文学部コミュニケーション学科	1年	神田 菜月
33	文学部神道学科		池田 千夏
34	教育学部教育学科		樋口 葵
35			濱口 奈々花
36			村嶋 大輝
37			山川 菜月
38			出馬 萌絵
39			本田 果穂
40			島崎 沙帆
41	現代日本社会学部現代日本社会学科		岡崎 優香
42			中桐 優太